

一般科目

1. 概要

21世紀を迎えた現代は、過去のどの時代にも見られないほど科学・技術が発達し、また国際化が進んできた。それに比して、人間性はむしろ希薄となり、個人の能力を超えて発達していく科学・技術によって従来の価値観が変えられ、その急激な変化にとまどいを感じている人が少なくない。一方、教育現場では対人関係やアイデンティティの問題にうまく適応できない学生をはじめ、新たに様々な問題が生じているのが現状である。

いかに科学・技術が発達しても、その科学・技術を用いる人間そのものが、優れた識見と豊かな人間性を備えていなければならないということは過去の歴史が明確に示しているところである。ところが、今日の社会では、すべての分野で細分化と専門化が進行しており、その結果、学校教育もまた細分化、専門化がなされている。これは全人教育という面において少し軽視される状況が出てきているのではないかと我々は危惧している。

そうした点から、本校においては「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成（学校教育法第70条の2、本校学則第1条）」する専門教科とあいまって、豊かな人間性と優れた識見を備えた学生を育成することが、一般教科に課せられた教育理念と捉えている。

本校の校訓には「志操高く、視野広く、身体たくましく、基礎学力を深め、創造的能力を磨き、汝の使命の達成に命をかけて生きよ」と謳っているが、まさにこれこそ、一般教科の目指す目標なのである。

高等専門学校は、中学校を卒業した若い15歳の学生を受け入れ、僅か5年間で社会人として必要な一般教養を修得させ、専門の学芸と職業に必要な能力を身につけさせ、専門の技術者として実社会へ送り出さなければならないので、大学等に比して一般教科の任務は重大である。

更に、一般教科では新指導要領によるゆとり教育等の導入を踏まえて、教科内容を点検し、見直しすることが行われている。

2. 授業内容

本校の一般科目では、人間教育、人格形成を重視し、志操高く、視野広い人間を育成するために、国語、歴史、哲学、倫理・社会、政治・経済、法学、地理の緒科目、健全な心身を形成するために体育科目、豊かな情操を育てるために美術、音楽、書道の芸術科目、さらに、専門教育につながる基礎学力の向上を図るものとして、数学、物理、化学の緒科目が課されている。また、ますます国際化していく社会に適応できる人間を育成するために、英語、ドイツ語の外国語を重視しており、特に、数学においては習熟度別授業を導入することによりきめの細かい指導を行っている。これにより、従来不足しがちであった演習を積極的に取り入れた授業を行うことに努めている。

一般科目

(平成16年度以降入学者)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 単 位 数					備 考	
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 科 目	国 語	6	3	3				
	国 語 A	2			2			
	国 語 B	1			1			
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数 学	基礎数学 I	4	4				
		基礎数学 II	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				
	美 術	2	1	1				
書 道	2	1	1					
英 語 I	8	2	3	3				
英 語 II	6	2	2	2				
英 語 III	1	1						
計	74	28	26	18	1	1		
選 択 科 目	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2				2		
	英 語 V	1					1	
	英 語 VI	1					1	
	独 語 I	2				2		
	独 語 II	2					2	
	中 国 語 I	2				2		
	中 国 語 II	2					2	
哲 学	2				2			
法 学	2					2		
履 修 単 位 数	75以上	28	26	18	3以上			

一般科目

(平成15年度入学者)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 単 位 数					備 考	
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 科 目	国 語	6	3	3				
	国 語 A	2			2			
	国 語 B	1			1			
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数	基礎数学Ⅰ	4	4				
		基礎数学Ⅱ	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
英 語 I	8	2	3	3				
英 語 II	6	2	2	2				
英 語 III	1	1						
計	74	28	26	18	1	1		
選 択 科 目	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2				2		
	英 語 V	1					1	
	英 語 VI	1					1	
	独 語 I	2				2		
	独 語 II	2					2	
	中 国 語 I	2				2		
	中 国 語 II	2					2	
哲 学	2				2			
法 学	2					2		
履 修 単 位 数	75以上	28	26	18	3以上			

1科目2単位を
選択必修

一般科目

(平成14年度入学者)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 単 位 数					備 考	
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 科 目	国 語	6	3	3				
	国 語 A	2			2			
	国 語 B	1			1			
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数	基礎数学Ⅰ	4	4				
		基礎数学Ⅱ	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
	英 語 I	7	2	2	3			
	英 語 II	6	2	2	2			
英 語 III	2	1	1					
計	74	28	26	18	1	1		
選 択 科 目	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2				2		
	英 語 V	1					1	
	英 語 VI	1					1	
	独 語 I	2				2		
	独 語 II	2					2	
	中 国 語 I	2				2		
	中 国 語 II	2					2	
	哲 学	2				2		
法 学	2					2		
履 修 単 位 数	75以上	28	26	18	3以上			

授 業 科 目	単位数	学 年 別 単 位 数					備 考	
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 科 目	国 語	9	3	3	2	1		
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数 学	基礎数学Ⅰ	4	4				
		基礎数学Ⅱ	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				1科目2単位を 選択必修
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
	英 語 Ⅰ	8	2	2	2	2		
	英 語 Ⅱ	6	2	2	2			
英 語 Ⅲ	2	1	1					
独 語 Ⅰ	2			2				
計	77	28	26	18	4	1		
選 択 科 目	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 Ⅰ	1				1		
	数 学 概 論 Ⅱ	1				1		
	数 学 概 論 Ⅲ	1					1	
	英 語 Ⅳ	2					2	
	英 語 Ⅴ	1					1	
	独 語 Ⅱ	2				1	1	
	哲 学	2				2		
	法 学	2					2	
履 修 単 位 数	77以上	28	26	18	4以上	1以上		

[第 1 学年]

科目名	国語			担当教員	森 孝宏		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01_20010		
学習目標	中学までの国語学習の基礎の上に、日本語(母語)による言語活動(読み・書き・話し・聞く)を通して、それらの能力を高める。近代文学・古文・漢文の基礎知識を身に付け、理解・鑑賞できる能力を養う。						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1.論述「高専生活への抱負」(2)			明治以降の近代文学を鑑賞し、生き方を考える A1:3, B1:1-2			
	2.近代文学史略(3)						
	3.小説「羅生門」(8)			歴史的仮名遣いを学び、古文学習入門とする A1:3			
	4.古文・宇治拾遺物語(2)						
	5.歴史的仮名遣い(1)			漢文の基礎的読み方を知る A1:3			
	6.漢文の構造(2)						
	7.返り点の練習(2)			先入観に囚われない考え方の柔軟性を養う A3:2			
	8.前期中間試験(1)						
	9.評論「コンコルドの誤り」(6)			日本古典の名作に触れ、感性を養う A1:3			
	10.古文・竹取物語(5)						
	11.動詞・形容詞・形容動詞の活用(2)			自己の考えを正確に表現する力を養う B2:1-2			
	12.仮定条件と確定条件、係り結びの法則(2)						
	13.漢文・入門(5)			プレゼンテーション演習により、共同作業と、要領よく説明する術を工夫する B3:2,C1:1,C4:2			
	14.論述(2)						
	15.前期期末試験(1)			年4回の定期試験80%、平常点(毎週の小テスト及び提出物等)20%の比率で総合評価する。			
	16.試験問題の解答と授業評価アンケート						
	17.評論「物まね上手・創造上手の日本技術」(4)			特になし。			
	18.古文・徒然草(3)						
	19.漢詩(4)			教科書：稲垣敬二 他 著「高等学校 標準国語総合」第一学習社 副教材：「高校漢字の総練習」三省堂、「新国語要覧」大修館書店			
	20.プレゼンテーション演習(4)						
	21.論述(2)			特になし			
	22.近代短歌(2)						
	23.百人一首の競技(2)			特になし			
	24.論述(2)						
	25.後期中間試験(1)			特になし			
	26.小説「伊豆の踊子」(8)						
	27.古文・伊勢物語(3)			特になし			
	28.漢文・十八史略(3)						
	29.漢文「論語」(3)			特になし			
	30.評論「イスタ-島になぜ森がないのか」(2)						
	31.論述(2)			特になし			
32.学年末試験(1)							

科目名	歴史			担当教員	内田由理子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2単位
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01-20040		
学習目標	我が国の歴史の展開を、我が国を取り巻く国際環境などとも関連づけながら世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化、伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。						
進め方	<p>地球的視点から多面的に物事を考える能力：我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察する能力を育成する。</p> <p>与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、多様な資料に親しみコンピュータやデジタルメディア等を活用するなど、情報や技術を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、観察・見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりする作業的・体験的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。</p>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.原始社会の生活と縄文文化(2)			年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。			
	2.農耕社会の形成と弥生文化(2)			縄文時代の社会について学ぶ。			
	3.ヤマト王権と古墳文化(1)			弥生時代の社会について学ぶ。			
	4.古代国家の確立(4)			ヤマト王権,古墳文化について学ぶ。			
	5.古代国家と天平文化(2)			推古朝の政治,飛鳥文化,大化の改新と壬申の乱,律令国家,白鳳文化について学ぶ。			
	6.貴族政治(2)			平城京と律令体制,天平文化について学ぶ。			
	7.前期中間試験(1)			平安京と律令体制の動揺について学ぶ。			
	8.試験返却,貴族政治と平安文化(3)			A1:3,			
	9.古代から中世へ(2)			摂関政治,国風文化について学ぶ。			
	10.武家社会と鎌倉文化(2)			院政と平氏政権,院政期の文化について学ぶ。			
	11.室町幕府の成立(2)			武家政権の誕生,執権政治,鎌倉文化について学ぶ。			
	12.下剋上の社会と室町文化(3)			南北朝の内乱と室町幕府について学ぶ。			
	13.中世から近世へ(2)			幕府の衰退,室町文化について学ぶ。			
	14.前期末試験(1)			ヨーロッパとの接触について学ぶ。			
	15.試験返却,授業評価アンケート,中世から近世へ(5)			A1:3,			
	16.幕藩体制の成立と転換(4)			戦国の動乱,織豊政権の全国統一,南蛮文化と桃山文化について学ぶ。			
	17.近世から近代へ(2)			幕藩体制の成立,政治改革,元禄文化について学ぶ。			
	18.明治維新(2)			政治改革と化政文化について学ぶ。			
	19.後期中間試験(1)			尊皇攘夷,討幕運動,明治維新について学ぶ。			
	20.近代国家の成立と国際情勢(4)			A1:3,			
	21.日清・日露戦争,第一次世界大戦と日本(3)			富国強兵政策,自由民権運動,明治憲法体制の成立,国際情勢について学ぶ。			
	22.近代から現代へ(3)			日本の近代化と日清・日露戦争,第一次世界大戦,新たな国際秩序と政党政治の実現について学ぶ。			
	23.新しい国際秩序と日本の課題(2)			日中戦争,太平洋戦争,戦後改革について学ぶ。			
	24.ものづくり教材ワーク(3)			国際社会への復帰,激変する世界と日本について学ぶ。			
	25.学年末試験(1)			歴史資料(史料)の再現を通して歴史と技術を理解し,またプレゼンテーション能力を培う。			
26.試験返却(1)			A1:1, A1:3, A2:2,				
評価方法	定期試験、提出物（ノート,プリント,レポート等）や学習活動などを総合評価する。						
関連科目	世界史、国語						
教材	教科書：伊藤純郎 他著「日本史B」清水書院						
備考							

科目名	地理			担当教員	細谷 守		
学年	全学科 1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01 20050		
学習目標	1. 地図・図表・統計等を通じて、現代社会の様々な事象がどのように展開しているか理解する。 2. 現代世界を教科書・書籍・マスメディアを通して関心を持って直視できる姿勢をつける。 3. 地球的課題が存在し、その解決のためには国際協力が必要であることを理解する。						
進め方	各学習項目ごとに、教科書・地図帳・資料プリント等を使用し、キーワードの確認・理解・延長へと学習内容を進めていく。また、全授業を通じて参加型学習を授業形態に取り入れる。また、現代社会の問題点が過去から現代に通じるものであるという通時的考えを身につけさせることにより、我々の行動に責任が要求されていることを自覚させる。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 球面上の世界と地域構造（2） 2. 地球規模から見た世界（2） 3. 日本の位置と領域（2） 4. 結びつく現代世界（2） 5. 交通の発達により交流する世界（2） 6. 世界の貿易（2） 7. 国家間の結合（2） ----- 8. 前期中間試験 ----- 9. 多様性を増す人間行動と現代世界（2） ----- 10. 身近な地域の国際化の発展（2） 11. 食材を通しての海外との交流（2） 12. 日本と世界の交流（2） 13. 人々を取りまく地形（2） 14. 人々を取りまく気候（2） 15. 世界の民族と文化（2） ----- 16. 前期末試験 ----- 17. 試験問題の解答と授業評価アンケート（1） ----- 18. アジアの生活・文化と環境（3） 19. EUの生活・文化と環境（2） 20. オーストラリアの地誌（2） 21. 韓国の生活・文化（2） 22. 中国の生活・文化（2） 23. ロシアの生活・文化（2） ----- 24. 後期中間試験 ----- 25. 人口問題（2） 26. 居住・都市問題（2） 27. 食料問題（2） 28. 資源・エネルギー問題（2） 29. 地球的規模の環境問題（3） 30. 温暖化問題（2） 31. 国際協力（1） ----- 32. 学年末試験			地図を利用し、世界の中での日本の位置の把握と交通・貿易・情報ネットを通じて結合している世界の現状を理解する。 A3:4 発表学習を通じて国際化を理解する。 A3:1 A1:3 世界の地誌的特性を把握し、多様な文化的相違と交流の大切さを理解する。 A3:4 今日地球的規模で生じている問題に関して考察する。連携し合う世界が一国や一地域の問題だけで解決する状況から連帯し合い共有とサステイナブルを必要とする状況にあることを理解する。 A1:4 A2:1 A2:3			
評価方法	定期試験70%，課題レポートの提出，発表内容等から30%の比率で総合評価する。						
関連科目	倫理社会，歴史，政治経済						
教材	教科書：山本 正三他 著「高校生の地理A」 二宮書店 教科書：帝国書院編集部編「標準高等地図」 帝国書院						
備考	特になし						

科目名	基礎数学 I			担当教員	須那聡, 谷口浩朗, 南貴之, 森岡茂		
学年	1 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01 20060		
学習目標	あらゆる算法の基礎である文字式, 方程式, 集合等の基本的性質を理解し, 計算に習熟する。また, 多項式, 分数式, 無理式の表す関数から指数, 対数関数まで, 関数の考え方とそのグラフによる表現を学ぶ。さらに場合の数など代数, 確率演算の基礎となる概念を学んで, 2 学年での微積分や線型代数への準備とする。						
進め方	各学習項目を講義し, 適宜演習を実施する。高等課程の数学事項の多さと深さは中学校までと格段に異なり, 単に授業毎に聞き, 見て, わかった, というだけでは次第に追従できなくなる例が多く見られる。勤勉にノートを作成し, 演算実習で十分に筆算練習し, 予習と復習を積み重ねなくては優れた理解と応用力は得られないことを厳しく理解して授業に臨んでほしい。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 整式の加減法, 整式の乗法 (4) 2. 因数分解, 整式の除法 (4) 3. 剰余, 因数定理 (4) 4. 演習 (4) 5. 分数式の計算, 実数 (4) 6. 平方根, 複素数 (4) 7. 演習 (4) 8. 前期中間試験 (2) 9. 2 次方程式, 解と係数の関係 (4) 10. 色々な方程式, 恒等式 (4) 11. 等式の証明, 演習 (4) 12. 2 次不等式, 種々の不等式 (4) 13. 不等式の証明 (4) 14. 集合, 命題 (4) 15. 演習 (4) 16. 前期末試験 (2) 17. 2 次関数のグラフ (4) 18. 最大最小 (4) 19. 2 次関数と 2 次不等式 (4) 20. べき関数, 分数関数と無理関数 (4) 21. 逆関数 (4) 22. 累乗根, 指数の拡張 (4) 23. 指数関数 (4) 24. 後期中間試験 (2) 25. 対数 (4) 26. 対数関数, 常用対数 (4) 27. 演習 (4) 28. 場合の数, 順列 (4) 29. 組み合わせ (4) 30. 色々な順列, 2 項定理 (4) 31. 演習 (4) 32. 学年末試験 (2)			数と式 (整式, 有理式, 無理式) の基本性質を理解し, 演算運用力を養う。D1:2,4 方程式や不等式の扱いをより深く学ぶ。D1:2,4 関数とそのグラフを 2 次関数, 分数関数や無理関数に即して学び, 幾何学的な把握力の基礎とする。D1:2,4 理論上も重要な指数関数と対数関数の性質とグラフを理解し, それによって新しく開かれる応用の世界を学ぶ。D1:2,4 複雑で高度な演算を組織化し, 確率的な見方を可能にするものとして, 場合の数の様々な考え方と方法とを学び, 演算応用に習熟する。D1:2,4			
評価方法	定期試験 (90%), レポート, 授業演習など平常点 (10 点) で総合評価する						
関連科目	基礎数学 II, 基礎工学演習						
教材	教科書: 新井一道他 著 「新訂 基礎数学」 大日本図書 問題集: 田代嘉宏編 「新編 高専の数学 1 問題集」 森北出版						
備考	特になし						

科目名	基礎数学			担当教員	谷口浩朗，中空大幸		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01_20070		
学習目標	三角関数は2学年以降の数学や物理，工学への応用が広い基本的な概念である。また，直線の方程式や円の方程式等も，2学年以降の勉強の基礎となる対象である。本授業では，三角関数および図形と式の関係を理解し，2学年以降の数学や物理，工学への応用ができるための基礎的な能力を身につけることを目標とする。						
進め方	教科書を基に講義した後，演習問題を多くこなすことにより，学力の定着に努める。中学校の数学とは異なり，進度もはやく，内容も難しくなるので，予習・復習を心がけること。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 鋭角の三角比(2) 2. 鈍角の三角比(2) 3. 三角比の相互関係(2) 4. 正弦定理(2) 5. 余弦定理(2) 6. 三角形の面積(2) 7. 一般角の三角関数(2) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9. 弧度法(2) 10. 三角関数の性質(2) 11. 三角関数のグラフ(2) 12. 三角関数を含む方程式・不等式(2) 13. 加法定理(2) 14. 加法定理の応用(2) 15. 三角関数の合成(2) ----- 16. 前期期末試験(1) 17. 試験問題の解答と授業評価アンケート(1) 18. 三角関数のまとめと総合演習(3) 19. 2点間の距離(2) 20. 直線の方程式(2) 21. 重心(2) 22. 2直線の平行・垂直(2) 23. 総合演習(2) ----- 24. 後期中間試験(1) ----- 25. 円の方程式(2) 26. 楕円(2) 27. 双曲線(2) 28. 放物線(2) 29. 2次曲線の接線(2) 30. 不等式と領域(2) 31. 総合演習(2) ----- 32. 学年末試験(1)			三角比を理解し，基本的な三角比を求めることができる。D1:2 三角形に関する正弦定理や余弦定理等の公式が使えるようになる。D1:2 三角形の面積が求められる。D1:2 弧度法を用いる事が出来る。D1:1 三角関数の意味を理解でき，基礎的な計算ができるようになる。また三角関数のグラフがかけられる。D1:1,2 加法定理などの諸公式が使えるようになる。D1:4 2点間の距離や直線の方程式など，図形と式に関して基本的事項を理解し，公式を適用して計算することが出来る。D1:1,2 円の方程式，楕円や双曲線等の方程式について理解し，それぞれの方程式を求めることができる。D1:2 円の接線について理解する。D1:1 不等式と領域の関係を理解する。D1:1 不等式の表す領域を図示することができる。D1:2			
評価方法	定期試験 90 % および平常点（授業態度や授業中の課題）10 % の比率で総合評価する。						
関連科目	基礎数学 I						
教材	教科書: 新井一道他 著 「基礎数学」 大日本図書 問題集: 田代嘉宏編 「新編 高専の数学1問題集」 森北出版						
備考	特になし						

科目名	物理			担当教員	東田洋次		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01_20100		
学習目標	物理学的な方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、探求の過程を通して科学の方法を習得させ、科学的な自然観を育成する。						
進め方	概ね教科書の内容にしたがって講義する。 身近な材料を使った実験を取り入れ物理現象が身近に感じられるよう配慮する。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 測定と有効数字、単位(2) 2. 速さと等速直線運動(3) 3. 速度と加速度(4) 4. 等加速度直線運動(4) 5. 運動の法則(3) 6. いろいろな力(3) 7. 運動方程式の作り方(3) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9. 落下運動(4) 10. 摩擦と運動(2) 11. 運動量と力積(3) 12. 運動量保存則と跳ね返り係数(4) 13. 仕事とエネルギー(4) 14. 力学的エネルギー保存則(4) ----- 15. 前期末試験(1) ----- 16. ベクトルの合成分解と成分(3) 17. 力や速度の合成分解(3) 18. 平面運動の運動方程式・運動量・仕事(3) 19. 放物運動・斜面上の運動(4) 20. 等速円運動(3) 21. 惑星の運動(3) 22. 単振動(3) 23. 慣性力(2) ----- 24. 後期中間試験(1) ----- 25. 剛体や流体に働く力(3) 26. 温度と熱を測る(2) 27. 熱量保存則と比熱、熱容量(3) 28. 気体の法則(2) 29. 気体の分子運動(3) 30. 内部エネルギーと熱力学第1法則(4) 31. 熱力学第2法則と熱機関の効率(2) ----- 32. 学年末試験(1)			速度、加速度の概念を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算ができる。D1:1,2 運動の3法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることができる。D1:1,2 運動方程式を解き、等加速度運動を応用できる。D1:2 運動量と力積を理解し、運動量保存則、はねかえり係数を用いた計算ができる。D1:1,2 仕事の計算ができる。運動エネルギー、位置エネルギーを理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。D1:1,2 ベクトルの合成分解ができ、成分を使って平面内での運動に関する計算ができる。D1:2 円運動、単振動、万有引力による物体の運動など力の向きが一定でない物体の運動について、それらの規則性を理解し、計算できる。D1:1,2 温度、熱、熱平衡などの基本的な概念を理解し、比熱、熱容量、熱量などの計算ができる。D1:1,2 原子・分子の微視的な運動によって巨視的性質が決まることを理解する。D1:1,2 熱力学第1法則について理解し、基本的な状態変化についての計算ができる。D1:1,2 熱力学第2法則について理解し、熱機関の効率が計算できる。D1:1,2			
評価方法	定期試験を70%、平常点（ノート、小テスト、レポート、授業態度など）を30%の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	教科書：小暮陽三 編集 「高専の物理」 森北出版 副教材：中村英二、吉沢康和 監修 「新訂物理図解」 第一学習社 問題集：田中富士男 編集 「高専の物理問題集」 森北出版						
備考	特になし						

科目名	化学			担当教員	笠井健吉, 長谷部 一 気		
学年	1 学年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01-20110		
学習目標	化学の基礎となる原子・分子概念、物質の定量的取り扱い、物質の性質、反応の量的関係、反応熱等々を理解させる。化学反応の具体例として、酸・塩基反応を取り上げ、その反応理由、中和滴定、そして塩の加水分解、塩の反応等々の学習から、より事実即した化学的知識を教授する。この結果として、化学的世界理解、従って物質概念からの世界理解の方法を修得させることを目標とする。						
進め方	検定教科書を批判的に読み進め、講義ノート中心に講義を進める。想像しがたい事例については演示実験、実際に見せる、あるいは学生自身が副教材である化学図解を参照しながら理解する。学生実験としては塩化ナトリウムの定量的合成、中和滴定のみとする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1.原子・分子概念(2) 2.電子殻(3) 3.元素の周期律(3) 4.化学結合(3) 5.極性・無極性(2) 6.金属結晶構造(3) 7.原子・分子発見史(4) ----- 8.前期中間試験(1) ----- 9.原子量・分子量・式量(3) 10.物質質量(3) 11.反応式の書き方(3) 12.反応における量的関係(3) ----- 13.前期末試験(1) ----- 14.物質の三態(3) 15.大気圧・蒸気圧(3) 16.気体の状態方程式(4) 17.実在気体(3) 18.可溶・不溶(3) 19.固体の溶解度(3) 20.気体の溶解度(3) 21.希薄溶液の性質(3) ----- 22.コロイド(3) ----- 23.後期中間試験(1) ----- 24.熱化学方程式(3) 25.反応熱計算法(4) 26.酸・塩基の定義(3) 27.電離度(2) 28.水のイオン積(3) 29. pH(2) 30.中和反応(3) 31.塩の加水分解反応(3) 32.中和滴定(3) 33.塩の反応(3) ----- 34.学年末試験(1)			化学における物質安定概念が原子分子の電子配置に関与していることを理解させる。 D1:3 原子分子発見史を理解することで、事実への接し方を理解させる。 D1:3 反応式より量的関係を読み取れる様にし、定量実験への基礎を理解させる。 D1:3 気体の状態変化を状態方程式から予測できるようにする。 D1:3 可溶、不溶関係の理由、そして溶解度を通して濃度という量が溶液の状態を表すものであることを理解させる。 D1:3 状態によってその物質が決まったエネルギーを持っていること、そして反応熱計算法 3 種理解させる。 D1:3 中和反応がなぜ生じるのか、また塩の水溶液が必ずしも中性でない理由を理解させる。 酸塩基反応の定量的扱いを理解させる。 D1:3			
評価方法	中間、及び定期試験結果を重視する。試験問題はノート重視に作成する。また、授業態度は総合評価の根拠とする。						
関連科目	数学, 物理学						
教材	1.検定教科書：精解化学 (数研出版), 化学 (数研出版) 2.スクエア最新図説化学 (第一学習社)						
備考	特になし						

科目名	保健・体育			担当教員	塩田政義・本田正・松本澄夫		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	07G01_20120		
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明したうえで、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を修得したうえで、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1, 年間授業の概要説明（1） 2, 集団行動（1） （スポーツテスト）3, 記録測定（3） （バレーボール） 4, パスの基礎技術（6） 5, パスゲーム（7） 6, 実技試験（1） （水泳） 7, 各種目練習（6） 8, 記録測定（1） （ハードル） 9, 基礎技術の修得（9） 10, 記録測定（1） （マット運動） 11, 種目練習（9） 12, 実技試験（1） （サッカー） 13, 基礎技術（パス・ドリブル）の修得（6） 14, ミニゲーム（7） 15, 実技試験（1）			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を理解する。整列隊形や隊形変更など集団での行動を身につける。自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。個人種目では、各種目の基本の理論を理解し、反復練習を行うことでそれらの技術を修得できるようにする。団体種目では、基礎技術の修得を中心に行う。また、簡易ゲームを行い、それらの技術をゲームの中で実践的に使えるようにする。 F1:1-4,F2:1-4,F3:1,2			
	（剣道） 1, 年間授業の概要説明（1） 2, 礼儀作法について（1） 3, 心構えについて（1） 4, 道具の使い方（1） 5, 基本動作の修得（5） 6, 対人的技能の修得（12） 7, 試合（8） 8, 実技試験（1）			年間計画を説明し、剣道の授業の目的や取り組む姿勢を理解する。 礼儀作法や剣道における心構えを理解し、精神面をしっかりとした上で、基本動作や対人的技能を修得する。 F2:1-4,F3:1,2			
	（柔道） 1, 年間授業の概要説明（1） 2, 歴史および礼儀作法について（1） 3, 心構えについて（1） 4, 受け身の修得（6） 5, 立ち技の修得（8） 6, 寝技の修得（4） 7, 試合（8） 8, 実技試験（1）			年間計画を説明し、柔道の授業の目的や取り組む姿勢を理解する。 礼儀作法や柔道における心構えを理解し、精神面をしっかりとした上で、基本の受け身や技を修得する。 F2:1-4,F3:1,2			
	週2時間は体育の授業を行い、週1時間は格技として、剣道と柔道の選択授業を行う。						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	音楽			担当教官	穴吹昌子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義, 実技	科目番号	07G01 20130		
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。音楽に対する関心を高め、想像力豊かな有為な人格を育成する。						
進め方	・基礎的技能と表現能力を伸ばす。音に対する敏感な感性を育てる環境に配慮する。						
履修要件							
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1.発声の基本(1) 2.校歌(2) 3.井上陽水の作品(3) 4.ビートルズの作品(1) 5.杉本竜一の作品(2) 6.主要音楽用語のテスト, 答案解説(2) 7.聴音のテスト, 答案解説(2) 8.ミュージカル作品(2) 9.映画音楽(2) 10.季節と歌う(1) 11.現代の日常耳にする楽曲(4) 12.民族音楽(1) 13.日本の歌(5) 14.鑑賞(1) 15.小論文(1)			ストレッチの重要性を学ぶ B2:1 愛校心を育て、音による豊かな感性を育む B2:2 3~5. 良質の楽曲に出会い、その曲想にのって声をつぶりと出し、歌うことの楽しさを積極的に味わう B1:1 8,9. ミュージカルの古今の名作に触れ、広く劇音楽というものへの興味、関心を高める A1:3 現代性とポピュラリティーに的を絞って、音楽的、教育的価値を多角的に捉える。 B1:1 日本語の美しさを歯切れのよいすっきりとした発音と表情で歌う B2:1			
評価方法	授業態度, 試験, 実技点を総合評価する。						
関連科目	芸術科目						
教材	教科書: 山本文茂著「新高校生の音楽1」 音楽之友社						
備考	特になし						

科目名	美術			担当教員	永井 崇幸		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	07G01_20140		
学習目標	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
進め方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
履修条件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1．鉛筆デッサン ペンを持った手（2）			鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。 E6:1			
2．記憶の絵地図（4） 着彩			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。 B2:1				
3．構成と表現			自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。 B2:1				
(1)「楽しい」と「悲しい」の表現 (2) 着彩			枠の中に着色できる。混色ができる。比較することで観念的でないイメージを膨らませる。 E6:1				
(2)「寒い」と「暖かい」の表現 (4) 着彩			身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現ができる。 B2:1				
(3)「明るい」と「暗い」の表現 (6) 着彩							
4．精密描写（12） 鉛筆デッサン、着彩			デッサンをして淡彩画の着色をする。 E6:1				
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
関係科目	自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						
関連科目	特になし。						
教材							
備考	自主的に美術館・ギャラリーなど鑑賞した際のレポートは、随時受け付けます。 スケッチブックと絵の具（アクリルガッシュ）を購入。（2年間使用）						

科目名	書道			担当教官	寺坂文和		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	07G01_20150		
学習目標	<p>国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書の美を追求していくことを目指す。</p> <p>書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書の美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。</p>						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。 						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.書の美を求めて(1) 2.楷書の学習の基本(2) 3.厳正な楷書と温雅な楷書(2) 九成宮醜泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 4.重厚な楷書と軽快な楷書(2) 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書 5.行書の特徴(1) 6.蘭亭序の鑑賞(1) 7.蘭亭序の臨書（半紙）(2) 8.蘭亭序の臨書（画仙紙半切）(5) 9.行書による創作(2) 10.平仮名の単体(2) 11.変体仮名(2) 12.連綿(2) 13.漢字仮名交じりの書の学習(2) 14.古名跡を応用しての表現(2) 15.用筆・運筆および用具・用材の工夫(2)			書の美とは何かを考えさせる A3:1 書の基本形を把握する B2:1 古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。B1:1 創作の手順を理解し作品づくりをする。B2:1 「いろは歌」により基本的なものを身につける。B1:1 連綿の方法や仮名の流動美を理解する。A1:3 漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける B2:1			
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「書道」 教育出版						
備考							

科目名	英語			担当教員	森 和憲		
学年	1 学年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01_20160		
学習目標	<p>本科目は、英語を読む、聞く、話す、書く上で、全ての基礎となる文法力を集中的に強化することを目指す。そのため本科目では、単に英文を暗記することによってではなく、数多くの応用問題を解きこなすことにより、帰納的に英文法への理解を深めるようなアプローチを取る。また、単語暗記テストを行うことにより、コミュニケーション能力の基礎となる語彙力を培うことも目標としている。</p>						
進め方	<p>1. 文法の演習問題を課題として与え、その解説を中心に授業を行う 2. 定期的に単語の暗記テストを行う 3. 定期的に英文法の小テストを行う</p>						
履修要件	なし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.国際語としての英語について（1）			英語の重要性について理解する			
	2.文型と動詞と時制（5）			現在形と過去形を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	3..完了形（2）			現在・過去完了形を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	4.完了形（2）			現在・過去完了形を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	5..助動詞（2）			助動詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	6.助動詞（1）			助動詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	7.まとめ(1)			既習項目の復習			
	8. 前期中間試験(1)						
	9.不定詞（2）			不定詞を含む複雑な文章を理解する B1:1-3			
	10.不定詞（2）			B2:1-3			
	11.分詞（2）			分詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	12.分詞（2）			分詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	13.時制の一致(2)			時制の一致を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	14.時制の一致(2)			時制の一致を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	15.まとめ（2）			既習項目の復習			
	16. 前期末試験（1）						
	17.態（3）			受け身表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	18.態（2）			受け身表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	19.動名詞（2）			動名詞を含む表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	20.動名詞（2）			動名詞を含む表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	21.関係詞（3）			関係詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	22.関係詞（2）			関係詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	23. 後期中間試験（1）						
	24..仮定法（3）			日本語にはない仮定法の項目を理解する			
	25.仮定法（2）			B1:1-3 B2:1-3			
	26.比較（3）			比較級及び最上級の文章を理解できる B1:1-3			
	27.比較（2）			B2:1-3			
	28.応用英文法（2）			既習の英文法を応用した文章を理解する			
	29.一年間のまとめ（2）			B1:1-3 B2:1-3			
30. 学年末試験（1）			既習項目の復習				
評価方法	中間・期末試験を80%、小テスト10%・提出物等を10%の比率で総合評価する。						
関連科目	英語 英語						
教材	教科書：桐原書店編集部: Intensive English Grammar in 27 Lessons（桐原書店） 英単語帳：田中茂範監修『DATABASE3000』（桐原書店） 演習問題集：桐原書店編集部: Intensive English Grammar Training Book（桐原書店） 安河内哲也『英文法レベル別問題集2 基礎編』（東進ブックス）						
備考	特になし						

科目名	英語 II			担当教員	宮西比呂志		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01_20170		
学習目標	1. 幅広い話題について読んだことを理解し、考えを伝える能力を伸ばすことを目的とする。 2. 基礎的な英文法の知識を修得することを目指す。 3. コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。						
進め方	まず教科書のリスニングをし、次にシャドーイングを（数回）し、聴き取れた内容について発表させる。その後、教科書の音読・読解をし、文法等の説明をする。必要に応じて文章の暗記・暗誦・ディクテーション・英語でのQ&A等を織り交ぜる。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. オリエンテーション (2) 2. Spring Festivals (2) 3. Spring Festivals (2) 4. Spring Festivals (2) 5. A Story from Scotland (2) 6. A Story from Scotland (2) 7. 試験範囲のまとめ (2) ----- 8. 前期中間試験 (1) ----- 9. 試験の解説・A Story from Scotland (2) 10. Sushi and Kanji (2) 11. Sushi and Kanji (2) 12. Sushi and Kanji (2) 13. Gift Giving (2) 14. Gift Giving (2) 15. 試験範囲のまとめ (2) ----- 16. 前期末試験 (1) ----- 17. 試験の解説・Gift Giving (2) 18. You Can Change the World! (2) 19. You Can Change the World! (2) 20. You Can Change the World! (2) 21. You Can Change the World! (2) 22. Eating Chocolate (2) 23. 試験範囲のまとめ (2) ----- 24. 後期中間試験 (1) ----- 25. 試験の解説・Eating Chocolate (2) 26. Eating Chocolate (2) 27. Eating Chocolate (2) 28. Get over Your Fear (2) 29. Get over Your Fear (2) 30. Get over Your Fear (2) 31. 試験範囲のまとめ (2) ----- 32. 学年末試験 (1)			授業の受け方・予習・復習の仕方を確認する。 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し伝えるようにする。SVOCの理解をする。 B1:1-3, B2:1-3 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し伝えるようにする。不定詞の理解をする。 B1:1-3, B2:1-3 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し伝えるようにする。現在完了等を理解する B1:1-3, B2:1-31 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し伝えるようにする。過去分詞等を理解する。 B1:1-3, B2:1-3 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し要約できるようにする。 B1:1-3, B2:1-3 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し要約できるようにする。動名詞・関係代名詞を理解する。 B1:1-3, B2:1-3 英文を聴き・読みした話題を理解し英語で話し要約できるようにする。過去完了・関係代名詞を理解する。 B1:1-3, B2:1-3			
評価方法	定期試験 80% , 小テスト・取組態度など 20% の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：LovEng. English Course , 影浦 攻 他著, 啓林館 LovEng. English Course 予習ノート, 高校英語研究会・啓林館編集部 プリント教材						
備考							

科目名	英語			担当教員	鳥越秀知		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01_20180		
学習目標	1. 基礎的なリスニング力や聴解による書き取り力をつける。 2. 基礎的な文法知識を定着させる。 3. 辞書を用いて英文を読むことをつうじて、語彙力を高め、読解力を向上させる。						
進め方	毎時間、リスニングのあと音読・デクテーションなどを行う。辞書を用いて、英文読解を行う。 その際、必要な文法事項に関しては、適宜教授する。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（各1時間）			学習到達目標			
	1. ガイダンス (1) 2. Description (1) 3. Recorded messages (1) 4. Conversation 1 (1) 5. Position (1) 6. Teacher's instructions (1) 7. Announcement (1) 8. Conversation 2 (1) 9. Quiz show (1) 10. Location (1) 11. Interview on the street (1) 12. Review A (3) 13. 前期末試験 (1) 14. 試験の解答と解説 (1) 15. Conversation 3 (1) 16. Schedule (1) 17. Speech (1) 18. On the radio (1) 19. Conversation 4 (1) 20. Graph (1) 21. Interview (1) 22. News (1) 23. Conversation 5 (1) 24. Discussion (1) 25. Review A (3) 26. 学年末試験 (1)			1. 英語学習への動機づけを高める 2 - 1 2 , 1 5 - 2 5 1) 辞書を用いて基礎的な英文を書いたり、聴解による基礎的な書き取りをしたりすることができる B1:1-2 2) 基礎的な文法による英文を理解することができる B1:1-2 B2 :1-2 3) 辞書を用いて基本的な英文を読むことができる B2 :1-2			
評価方法	定期試験 80%、取り組み態度・提出物など 20% の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：HyperListening Introductory , Ichiro Hasegawa , 桐原書店 プリント教材						
備考	中間試験は実施しない						

[第 2 学年]

科目名	国語			担当教員	富士原伸弘		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02_20010		
学習目標	1 学年までの国語学習の基礎の上に、日本語(母語)による言語活動(読み・書き・話し・聞く)を通して、それらの能力を高める。近代文学・古文・漢文の基礎知識を身に付け、理解・鑑賞できる能力を養う。本科目は、学習・教育目標 A, B, C に関係している						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。 特に、学習目標のうち、A1, B1, B2 の項目に重点をおいて授業を進める。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 論述「新学年の始まりに思う」(1)			定型書簡文、定型文書の形式を知り、文書作成する力を養う。 B2:1-2			
	2 評論「恐怖とは何か」(6)			現代的評論に触れ、視点の取り方を考える。 B1:1-2			
	3. 古文「枕草子」(7)			日本古典・中国古典に触れて感性を養い、先人の思想の学び人間と文化について考える。 A1:3, A3:2			
	4. 漢文「孟子、荀子」(7)						
	----- 5. 前期中間試験(1) -----						
	6. 小説「こころ」(8)			近代文学の代表作に触れ、自我意識を再考する。 A1:3, B1:1-2			
	7. 古文「源氏物語」(7)						
	8. 漢文「四面楚歌」(7)						
	----- 9. 前期期末試験(1) -----						
	10. プレゼンテーション(3)			プレゼンテーション演習により、共同作業と、要領よく説明する術を工夫する B3:1-3, C1:1, C4:1-4			
	11. 随想「「ぞうさん」とまどさん」(6)			先入観に囚われない考え方の柔軟性を養う A3:4, B1:1-2			
	12. 古文「私の百人一首」(8)						
	13. 漢文「老子、荘子」(6)						
	----- 14. 後期中間試験(1) -----						
	15 評論「聴くということ」(6)						
	16. 評論「未来世代への責任」(6)						
	17. 古文「古事記」(8)						
----- 18. 後期期末試験(1) -----							
評価方法	年4回の定期試験80%、および毎週の小テスト10%、レポート・提出物等10%の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし。						
教材	教科書：柴田 武他 著「新編 現代文」三省堂 小町谷照彦 他 著「新編古典」東京書籍 副教材：「速修常用漢字」文英堂、「新訂国語図説」京都書房						
備考	特になし。						

科目名	倫理社会			担当教官	細谷 守		
学年	全学科 2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02 20020		
学習目標	1. 青年期の意義、及び課題を心理学的見識から考え、主体性の確立をはかる。 2. 宗教が人生にどのような意味を与えているのかを考える。 3. 先哲の生き方、考え方を手がかりに人生の価値追求への関心を高める。 4. 現代社会が及ぼすさまざまな事象への倫理的あり方に関して考える。						
進め方	教科書の内容と実際に生じている事例を、知識として把握するだけでなく、自らに課せられた問題として、問題事象への倫理的あり方に対しての直感と先哲等の考え方等を参照しながら、自らがどう対処すべきかを、討論形式及びレポート提出等を通じて主体的に述べさせ、生き方の諸課題に自らが参加する進め方をする。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.「倫理」とは(1) 2.<わたし>とは何か(2) 3.身体と性(3) 4.障害を捉え直す(2) 5.死について(2) 6.私たちの生きる社会(2) 7.変貌する家族(2) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9.情報社会の中で(2) 10.社会との関わりの中で(2) 11.生命倫理に関して(3) 12.命の意味(1) 13.環境倫理を考える(2) 14.伝統の継承と発展(1) 15.共存する社会(3) ----- 16. 前期末試験(1) ----- 17.試験問題の解答と授業評価アンケート(1) 18.ユダヤ教とイエスの宣教(3) 19.キリスト教の展開(2) 20.インドの思想の展開(2) 21.仏教の思想(2) 22.仏教の日本的展開(2) 23.日本の思想(2) ----- 24. 後期中間試験(1) ----- 25.ギリシア自然哲学(2) 26.ソクラテス(2) 27.プラトン(2) 28.アリストテレス(2) 29.ヘレニズム哲学(2) 30.合理的精神：ベーコンとデカルト(2) 31.近代の人間観(2) ----- 32. 学年末試験(1)			倫理社会で何を学ぶのかを理解する 自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる A1:4 心理学等を通しての人の本質を理解する 現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する A1:2 A1:1 聖書を通して一神教の考えを理解する A1:3 キリスト教の理解を深める A3:2 ウパニシャッド哲学を考える A3:2 釈迦の正覚したことを理解する A3:1 親鸞等の考え方を理解する A3:1 日本の風土と宗教観を理解する A3:4 宗教の基本を把握する 哲学の発生と変遷をたどる A3:2 善く生きることの意義を考える A1:4 本質・真実について考察する A3:1 形相と質料等のとらえ方を学ぶ A3:1 快楽と禁欲の考え方 A3:4 帰納法と演繹法を理解する A3:1 人間の思考の変化を考える A3:4 哲学によるさまざまな考え方を理解する			
評価方法	定期試験 70%, レポート 20%, 平常点（授業態度）を 10%の比率で総合評価する						
関連科目	地理, 歴史, 政治経済						
教材	教科書：鷲田 清一 監修 「倫理」 教育出版						
備考	特になし						

科目名	歴史			担当教員	井上 斌, 内田由理子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2単位
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02-20040		
学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質及び人類の課題を広い視野から多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。また、学習教育目標である「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を、授業を通して培っていく。						
進め方	<p>地球的視点から多面的に物事を考える能力：世界の歴史の展開を、広い視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、地球世界の課題についても考察する能力を育成する。</p> <p>与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力：多様な資料に親しみコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するなど、情報や技術を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、観察・見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりする作業的・体験的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。</p>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 文明のはじまり (2) 2. オリент文明の形成 (3) 3. ギリシア世界とオリент (2) 4. ローマ帝国と地中海世界 (2) 5. 中国文明の形成 (2) 6. 秦漢帝国の形成と遊牧国家の動向 (3) 7. 隋唐帝国と東アジア諸民族の活動 (2) 8. 前期中間試験 (1) 9. 試験返却, イスラーム国家の成立 (2) 10. 軍人政権の時代とイスラーム文化 (2) 11. ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界 (2) 12. 西ヨーロッパ世界の成立 (2) 13. ヨーロッパ世界の変動 (2) 14. 契丹・女真と宋の抗争 (2) 15. モンゴル帝国の興亡 (2) 16. 後期末試験 (1) 17. 試験返却, 授業評価アンケート, 明清帝国の繁栄 (2) 18. 大航海時代とアメリカ・アフリカ (2) 19. ルネサンスと宗教改革 (2) 20. 近代主権国家の成長 (3) 21. 産業革命 (2) 22. フランス革命とナポレオン (2) 23. 世界市場の形成と世界の分割 (2) 24. 後期中間試験 (1) 25. 第一次世界大戦とロシア革命 (3) 26. アジアの独立運動と革命 (2) 27. 第二次世界大戦 (2) 28. 戦後世界の形成と変容 (2) 29. 21世紀の課題 (1) 30. 学年末試験 (1) 31. 試験返却			年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。 農業と牧畜の発生により世界各地に都市文明が生まれていった。また文字は文明を発展させ伝達する役割をはたしていく。このように世界各地には独自の地域世界が形成されていった。人類の残した古代文明と地域世界の展開にはどのような特色がみられるのか、オリент文明、地中海文明、中国文明を中心に学ぶ A1:3, 遊牧民はすぐれた指導者と共通の目的をもつと、その勢力を拡大していった。商人による交易活動は海に陸にと広がり、複数の地域結び付け世界を、融合・統合していく役割を果たした。これまでみたユーラシア諸地域世界の歴史を、地域間の活発な交流を中心としたヨコのつながりに目を向けながら学ぶ。 A1:3, 大航海時代、南北のアメリカ大陸ではヨーロッパ世界による大規模な開発がすすんでいった。逆にアメリカからは砂糖、綿花、銀等がヨーロッパにもたらされる。また産業革命により工場での安価な大量生産が可能となったり大陸のあいだの移動を早めていく。各地域世界はどのように変化していったのか学ぶ A1:3, 資本主義世界が発展し競争を活力源とする経済システムが登場すると、空間と資源をめぐる世界規模での争いが生じ、またエネルギーや資源枯渇問題が発生した。世界戦争と環境破壊の時代 20 紀とはどのような時代であったか学ぶ。 A1:1, A1:3, A2:2,			
評価方法	定期試験、提出物（ノート、プリント、レポートなど）や学習活動などを総合評価する。						
関連科目	日本史、国語						
教材	教科書：鶴間和幸 他著「世界史B」清水書院						
備考							

科目名	基礎数学			担当教員	篠丸憲三, 橋本竜太		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02_20070		
学習目標	<p>数学の基本的概念のうち「数列」「ベクトル」「行列」について学ぶ。「数列」を学ぶことを通して数学における自然な考察の方法の一端を学ぶ。「ベクトル」に関しては、平面や空間内の図形の性質を調べる道具としてベクトルを利用することを学ぶ。「行列」に関しては、行列の基本的な操作を学ぶ。とくにベクトルや行列は線形代数の基本概念であり、現代の自然科学や工学において線形代数の果たす役割は大きいので、ベクトルや行列の扱いに習熟することを目指す。</p>						
進め方	<p>講義形式で行うが、その内容は教員からの一方的な説明のみで身につくものではない。授業の進度に合わせて受講生各自が予習復習をすることを前提として講義を進める。必要に応じて演習を行ったりレポートを課したりする。</p>						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 数列(2) 2. 等差数列(2) 3. 等比数列(2) 4. シグマ記号(2) 5. 数列の和(2) 6. 漸化式(2) 7. 数学的帰納法(2) 8. 前期中間試験(1)			基本的な数列の一般項を計算できる。 D1:2 総和記号を含む式の計算ができる。 D1:2 数学的帰納法を活用できる。 D1:2			
学習内容	9. ベクトル(1) 10. ベクトルの演算(3) 11. ベクトルの成分(2) 12. ベクトルの内積(2) 13. ベクトルの平行と垂直(2) 14. 直線のベクトル方程式(2) 15. 円のベクトル方程式(2)			ベクトルの概念を理解し、ベクトルの演算ができる。 D1:2 ベクトルの平面図形への応用ができる。 D1:2			
	16. 前期末試験(1) 17. 空間座標(1) 18. 空間ベクトルの成分(3) 19. 空間ベクトルの内積(2) 20. 直線の方程式(2) 21. 平面の方程式(2) 22. 球の方程式(2) 23. ベクトルの線形独立・線形従属(2)			空間のベクトルを理解する。 D1:2 空間内の直線、平面、球の方程式を扱うことができる。 D1:2 ベクトルの線形独立性を理解している。 D1:2			
学習内容	24. 後期中間試験(1) 25. 行列の定義(1) 26. 行列の和・差、数との積(3) 27. 行列の積(3) 28. 転置行列(1) 29. 逆行列(2) 30. 連立1次方程式と消去法(2) 31. 逆行列と連立1次方程式(2)			行列の基本的な演算ができる。 D1:2 行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。 D1:2			
	32. 学年末試験(1)						
評価方法	定期試験 90%, レポートや平常点(授業での課題や授業態度) 10%の比率で総合評価する。						
関連科目	基礎数学, 基礎数学(1年), 微分積分学, 応用解析学						
教材	教科書: 新井一道他著「新訂 基礎数学」, 「新訂 線形代数」大日本図書 問題集: 田代嘉宏編「新編 高専の数学2 問題集」森北出版 その他, プリントなど。						
備考	特になし						

科目名	微分積分学			担当教員	谷口浩朗, 須那聡, 南貴之, 橋本竜太, 森岡茂		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02_20080		
学習目標	工学や自然科学を学ぶ上で、微分積分の素養はもはや欠かすことはできない。変化を把握する「微分」や変化の蓄積を測る「積分」の概念に十分馴染んでさまざまな分野で有効に活用できるようになるための第一歩として、微分積分法の基礎計算技術の習得および微分積分の基本概念の修得を目指す。						
進め方	, , の各クラスに分かれて習熟度別に学習する。各クラスでは以下のような基本方針の下で講義が展開される。 クラスは応用力を養成する。 クラスは小テストや演習を通して、工学のどの分野を学ぶにも困らないレベルの演算能力を身につける。 クラスは1年次の復習も兼ねながら、基礎学力の定着を図る。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 関数の極限(4) 2. 関数の連続(4) 3. 微分係数, 導関数(4) 4. 導関数の公式(4) 5. 合成関数の導関数(4) 6. 演習(4) 7. 三角関数の導関数(4) ----- 8. 前期中間試験(2) ----- 9. 逆三角関数の導関数(6) 10. 指数関数や対数関数の導関数(4) 11. 対数微分法(2) 12. 演習(4) 13. 平均値の定理(4) 14. 関数の増減と極値(4) 15. 関数の最大や最小(4) ----- 16. 前期末試験(2) ----- 17. 接線と法線, 不定形の極限(6) 18. 高次導関数(2) 19. 曲線の凹凸(4) 20. 媒介変数表示と微分法(6) 21. 速度と加速度(2) 22. 定積分(4) 23. 不定積分(4) ----- 24. 後期中間試験(2) ----- 25. 定積分と不定積分の関係(2) 26. 定積分の計算(4) 27. 置換積分法(4) 28. 部分積分法(4) 29. 分数関数や無理関数の積分(6) 30. 三角関数の積分(4) 31. 図形の面積, 曲線の長さ(4) ----- 32. 学年末試験(2)			関数の極限の意味を理解し, 具体的な計算ができる。 D1:2,4 微分の概念を理解し, 具体的な微分の計算ができる。 D1:2,4 増減表を作成して関数の変化の様子をとらえ, グラフの概形を描くことができる。 D1:2,4 積分の概念を理解し, 具体的な積分の計算ができる。 D1:2,4 積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2,4			
評価方法	定期試験 90%程度, 残りをレポート, 小テスト, 宿題, 演習などで総合評価する。 定期試験は , , のクラスを問わず同一の問題で実施する。						
関連科目	基礎数学 , 微分積分学(3年), 応用解析学						
教材	教科書: 新井一道他著「新訂 微分積分」大日本図書 問題集: 田代嘉宏編「新編 高専の数学2問題集」森北出版 その他, プリントなど。						
備考	特になし						

科目名	物理			担当教員	長谷部一気		
学年	2 学年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般教科	授業形式	講義	科目番号	07G02-20100		
学習目標	前期は、波という現象の理解を通して、物理学の基本的な考え方と自然観を理解する。授業を通して、自然に対する興味と探求の姿勢を育成する。後期は、原子物理学と実験を通じ、近代物理学の考え方に触れると共に、自然に積極的に働きかけ、そこから学び取る姿勢を形成する。						
進め方	前期は、水波・音波・光波などの具体例を用いて、波の理解を深め、その普遍的な性質を議論する。後期は、原子物理学と実験を通じて物理学の近代的考え方、実験手法を習得するよう進める。						
履修要件	なし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.円運動・単振動（2） 2.波の表し方（2） 3.正弦波（2） 4.波のエネルギー（2） 5.波の干渉と重ね合わせの原理（2） 6.定常波（2） 7.水の波の伝わり方（2） 8. 前期中間試験 9.音波（2） 10.発音体の固有振動（2） 11.ドップラー効果（2） 12.光の波の進み方（2） 13.光波の性質（2） 14.回折、干渉、偏光（2） 15.まとめ（2） 16. 前期末試験 17.光の粒子性、電子の波動性（2） 18.原子の構造（2） 19.原子核の構造（2） 20.素粒子（2） 21.実験 22. 後期中間試験 実験テーマ A：密度の測定 B：向心力 C：重力加速度の測定 D：サールの装置 E：天秤による固体の比重測定 F：ジョリのパネはかり G：固体の比熱 H：球面計 I：固体の熱膨張係数測定 J：顕微鏡（望遠鏡）の倍率 K：電流による熱の仕事当量 L：ユージングの装置 M：湿度の測定 N：光の速度測定 O：ミリカンの油滴による電気素量の測定 P：電子の比電荷測定 Q：レーザー光線の波長測定 R：気柱共鳴による音速測定 S：自然放射線測定			角速度、周期、回転数（振動数）を理解する。 波源、媒質、波の波長、振幅、速さを理解する。 単振動の式から正弦波の方程式を理解する。 単振動のエネルギーから波のエネルギーを理解する。 波の位相、独立性、干渉から合成波を理解する。 反射波の位相から定常波を理解する。 水波の性質からホイエンスの原理を理解する。 D1:1,2,3 D5:1,3 波の3要素、うなりを理解する。 弦・管の共振・共鳴から固有振動を理解する。 ドップラー効果の現象を理解する。 フェルマーの原理を理解する。 光波の屈折率、臨界角、光路長を理解する。 光波の回折、干渉、偏光の性質を理解する。 これまでの学習のまとめと議論を行う。 D1:1,2,3 D5:1,3 光の粒子性、電子の波動性を議論する。 水素原子のスペクトル、量子化条件を議論する。 原子核の内部構造、核反応を理解する。 素粒子の種類、最新の話題について講義する。 D1:1,2,3 D5:1,3 （左記のテーマの中から3～4人で1グループを形成し4～5テーマを2週間毎の輪番で実験を行う。） 実験終了一週間後に報告書を提出。 この物理実験により、測定器の取り扱い方に習熟させるとともに、目盛の読み方、測定値の処理法、有効数字の取扱方、誤差の取り扱い方、報告書の書き方等を学ぶ。 B1:4 B2:3 B3:4 C1:1,5,6 C2:1,2,3 C3:1,2,3 E1:1,2,3,4 E5:2,3 E6:1,2,3 なお、電磁気学は専門科目と重複するので割愛する。			
評価方法	前期は中間と期末の試験を行い、その結果を重視した評価を行う。後期は、中間試験、実験レポート、授業態度、課題レポートによる総合評価を行う。						
関連科目	数学，化学						
教材	高専の物理；小暮陽三編（森北出版）参考書1；阿部龍蔵著、基礎からベスト物理（学研）、参考書2；渡辺久夫著、親切な物理上、下（正林出版、）基礎物理実験；下村健次著（共立出版）						
備考	参考書1の内容のまとめ、問題解答のレポートを課すことがある。						

科目名	化学			担当教員	笠井健吉		
学年	2 学年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02-20110		
学習目標	酸化・還元の見識から電池、電気分解現象を理解させ、その後、反応一般論として化学平衡の法則を教授する。そして1年次既習の酸・塩基反応等々の反応理由をこの化学平衡の法則から理解させる。陽イオン分析実験を通して、既習の化学知識、そして実験技術の実際的体得を促す。有機化学に関しては、有機化合物の体系的把握をさせ、その性質、反応性が主として各種官能基、結合種、分子構造によって定まっていることを理解させる。また高分子については、この有機化合物の体系的把握をさせる中で、同時に紹介、理解させる。						
進め方	検定教科書を批判的に読み進め、講義ノート中心に講義を進める。想像しがたい事物、事例については演示実験、実際に見せる、あるいは学生自身が副教材である化学図解を参照しながら理解する。学生実験は以下の学習内容に示すとおりである。						
履修要件							
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1.酸化・還元の見識(2) 2.酸化数定義の必要性(2) 3.酸化剤・還元剤の見識(2) 4.酸化・還元反応式の導出(2) 5.酸化・還元滴定実験(2) ----- 6.前期中間試験(1) ----- 7.イオン化傾向(2) 8.電池の形成条件(2) 9.ダニエル電池(2) 10.乾電池、蓄電池(2) 11.電気分解(2) 12.ファラデー定数・電子の電荷測定実験(2) ----- 13.前期末試験(2) ----- 14.反応速度(2) 15.化学平衡の法則・ル・シャトリエの原理(3) 16.溶解度積(1) 17.化学平衡の法則から反応理由の理解(2) 18.緩衝溶液(1) 19.10種陽イオン分析実験(8) ----- 20.後期中間試験(1) ----- 21.有機化合物の分類(2) 22.元素分析・分子式決定法(2) 23.構造式決定法(2) 24.炭化水素の3次元構造と性質・反応性(5) 25.過マンガン酸カリ徹底酸化反応(2) 26.各種官能基の性質・反応性(2) 27.芳香族の性質・反応性(2) 28.高分子の形成とその性質(2) ----- 29.学年末試験(1)			電子授受による定義付けを理解させる。 D1:3 酸化剤、還元剤の反応式導出、及びそれらより酸化還元反応式が導出できるようにする。 D1:3 電池と酸化還元反応との関係を理解させる。 D1:3 ファラデー定数の実測からイオン、電子の体験的理解をさせる。 D1:3 平衡移動という観点から種々の反応の反応理由が得られることを理解させる。 D1:3 これまで学習してきたことをでき得る限り、実体験させる。 D1:3 有機化学を炭化水素を元に体系的に理解させる。 D1:3 化学的構造決定法の一として理解させる。 D1:3			
評価方法	中間、及び定期試験結果を重視する。試験問題はノート重視に作成する。陽イオン分析についてはイオン1個4点、レポート30枚以上で30点、後期中間試験は実験に関する問題で30点、計100とする。また、授業態度は総合評価の根拠とする。						
関連科目	数学、物理学						
教材	1.検定教科書：化学（数研出版）、化学（数研出版） 2.スクエア最新図説化学（第一学習社）						
備考	特になし						

科目名	保健・体育			担当教員	有馬弘智		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	07G02_20120		
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明したうえで、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を修得したうえで、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1, 年間授業の概要説明（1） ソフトボール 2, 捕球・送球の基礎技術（2） 3, バッティングの基礎技術（5） 4, ルール説明（1） 5, 連係プレーの理論（2） 6, ゲーム（8） 7, 実技試験（1） バレーボール 8, パスの基礎技術（2） 9, スパイクの基礎技術（5） 10, ルール説明（1） 11, フォーメーションの理論（2） 12, ゲーム（8） 13, 実技試験（1） 水泳 14, 各種目練習（3） 15, リレー・メドレーリレー（2） 16, タイム測定（1） 鉄棒 17, 種目説明（3） 18, 種目練習（4） 19, 実技試験（1） スポーツテスト 20, 種目練習（3） 21, 記録測定（5） バスケットボール 22, パス・ドリブルの基礎技術（1） 23, シュートの基礎技術（1） 24, 対人練習（4） 25, ルール説明（1） 26, フォーメーションの理論（2） 27, ゲーム（8） 28, 実技試験（2） サッカー 29, ルール説明（2） 30, ゲーム（8）			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を理解する。 F2:1-4 ソフトボールの基礎技術（捕球・送球・バッティング）を修得し、ゲームの中で、連係プレーが行なえるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F3:1-3 バレーボールは、1年時にパスの技術を修得しているのので、主にスパイクの基礎技術を修得する。また、ルールを把握し、ゲームを運営できるようにすると共に、サーブレシーブのフォーメーションを理解し、ゲームの中で、スパイクが打てるようにする。 F3:1-5 水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳ぎの向上を目指す。 F1:3,4,F3:1-3 技のメカニズムを理解し、反復練習を行い、技の修得を目指す。 F3:1,2 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4 バスケットボールの基礎技術（パス・ドリブル・シュート）を修得する。2人以上のプレイを理解し、ゲームの中で活用できるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F3:1-3 ルールとシステムを理解し、ゲームを運営できるようにする。 F3:1-5			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	音楽			担当教官	穴吹昌子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義, 実技	科目番号	07G02 20130		
学習目標	音楽の諸活動を通して、個性豊かな表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う						
進め方	多様な音楽を教材として取り入れ、それぞれの音楽の価値を認めつつ、芸術性豊かなものへと目指していく						
履修要件							
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1.カーペンターズの作品(2) 2.ビートルズの作品(1) 3.サイモン&ガーファングルの作品(2) 4.日本のこころ(2) 5.民俗と音楽(3) 6.西洋音楽の作曲家の肖像(2) 7.実技テスト(6) 8.ポピュラー音楽(2) 9.聴音テストと解答(1) 10.創作(作曲)(4) 11.ジャズ音楽(1) 12.カノンを歌う(1) 13.ロシア民謡(1) 14.音楽療法(1) 15.小論文(1)			1～3では、音楽は美しいと感じるような感性を養う A1:3 「島唄」を通して沖縄の音楽を学ぶ A1:4 口頭伝承の作品を学ぶ B1:1 音楽が心の表象であることを理解する B1:1 音色と個性のハーモニーに努める B2:1 現代音楽を通じ豊かな音楽の表象に親しむ B1:1 音感を養う B1:1 作曲も簡単なものならば、少しの知識と、音で「遊べ」ば出来るものだということを知る B1:2 さまざまな音楽の表現に親しむ A1:3 バロック音楽のバス定型の構造を理解する B1:1 豊かな音楽的教養に親しむ A1:3 音楽療法の歴史や、音楽と精神との関係などを学ぶ A1:3			
評価方法	授業態度、試験、実技点を総合評価する。						
関連科目	芸術科目						
教材	教科書：浜野政雄著「最新 高校生の音楽2」 音楽之友社						
備考	特になし						

科目名	美術 Fine Arts			担当教員	永井 崇幸		
学年	2	学期	通年	履修条件	必履修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	07G02 20140		
学習目標	構想画、デザイン画、あらゆる表現方法による絵画表現を通して、個々の創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。イメージを膨らませて、自主的に創造する価値と喜びを感じさせる。						
進め方	絵画表現を通して、独自のイメージを膨らませ、自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1. 構想画 - 未来都市を描く（8） 着彩			<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿ったイメージは、どのようにして引き出すことができるかを考える。 ・CGの発達により、意識のないままに仮想現実（バーチャルリアリティ）があふれていることを認識する。それらのイメージを再構成して、独自のイメージとして表現することができる。 ・幾つかの制作条件のもとで、未来の都市空間を豊かなイメージを膨らませて表現することができる。 ・直線・曲線を使い分けて建造物と都市空間を表現することができる。 			
	2. デザインと描写 - 定められた空間の構成（10） 着彩			<ul style="list-style-type: none"> ・自分でデザインする外形を決定する。 ・指定された条件下で定型の形を生かして表現することができる。 ・デザイン的な色面構成の中に精密な描写をすることができる。 ・制作に必要な資料を準備し、テーマに沿った表現ができる。 			
	3. 自由制作（12） 着彩			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の制作に必要な参考の資料を準備する。 ・あらゆる絵画表現手段を用いて作品制作する。 ・自分の定めたテーマを感性豊かに表現することができる。 			
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
学習・教育目標との関係	自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						
関連科目							
教材	教科書：永井一正 他著「高校美術2」 日本文教出版社						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなど鑑賞した際のレポートは、随時受け付けます。						

科目名	書道			担当教官	寺坂文和		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	07G02_20150		
学習目標	これまでの学習内容と関連づけながら、表現と鑑賞の能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、書の美への探求がより充実、深化したものとなるようにする。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・多様な書の美への関心と鑑賞の必要性を理解させ、美を追求する姿勢を確立させる。 						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.書の美を求めて(1) 2.篆書の学習(1) さまざまな篆書 3.石鼓文の鑑賞と臨書(2) 4.金文の鑑賞と臨書(2) 5.隷書の学習(1) さまざまな隷書 6.隷書の特徴(1) 7.曹全碑の鑑賞と臨書(2) 8.行草書の学習(4) 風信帖の鑑賞と臨書 9.行書の創作(3) 10.楷書の学習(4) 整斉の美と均衡の美 11.仮名の書の学習(2) 種類、特徴 12.漢字仮名交じりの書の学習(1) 13.書体の趣を生かした表現の工夫(2) 14.古名跡を応用しての表現(2) 15.全体構成の工夫(2)			書が求める美とは何かを考える A3:1 特徴を確かめ、その特性を確認する A3:1 それぞれの特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする A3:2 特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする A3:2 特徴を確かめ、その特性を確認する A3:2 漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。 B2:1			
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「書道」 教育出版						
備考							

1	科目名	英語 I	2	担当教官	畑 伸興
3	学年	2年	4	学期	通年
			5	履修条件	必修
7	分野	一般	8	授業形式	講義
			9	科目番号	07G02_20160
10	学習目標	英語の4技能に関する基本的な能力を養成し、英語運用能力のための基礎的な学力をつける。 4技能の養成に関して、文法力の強化に中心を置く。			
11	進め方	テキストを2種類使用し、各学習項目ごとに、学習内容の解説と要点を講義する。また適宜課題の提出や点検を行い、その定着を図る。			
12	学習内容	学習項目(時間数)		学習到達目標(f)	
		1.Lesson 1 How did the Romans develop the alphabet?(4) 2.Lesson 2 Why do elephants have big ear?(4) 3.Lesson 3 How are IQs measured, and what is the average?(5) 4.基本文型(2) 5.文の種類(2) 6.動詞(2) 7.進行形と完了時制(2) 8.前期中間試験(1) 9. Lesson 4 What's the origin of jeans?(4) 10.Lesson 5 Why do the Chinese name each year after an animal? (5) 11.Lesson 6 Why should red wine but not white be allowed to breathe?(5) 12.助動詞(2) 13.態(2) 14.名詞(2) 15.代名詞(2) 16.前期期末試験(1) 17.Lesson 7 If skin constantly renews itself, why are tattoos permanent?(4) 18.Lesson 8 Why have proverbs survived?(4) 19.Lesson 9 How is the pollen count measured, and why is it so high some years?(5) 20.形容詞と副詞(2) 21.冠詞(2) 22.不定詞(2) 23.分詞(2) 24.後期中間試験(1) 25.Lesson 10 Is it really necessary to destroy horses when they break their legs?(4) 26.Lesson 11 Why were women making a long queue?(5) 27.Lesson 12 Are gardens a recent invention?(5) 28.動名詞(2) 29.比較(2) 30.仮定法(2) 31.関係詞(2) 32.学年末試験(1)		学習項目 1,2,3,9,10,11,17,18,19,25,26,27 (教科書) 英文を読み、英単語・熟語、文法事項、定形表現などを学ぶ。 B1:1,2 各レッスンで学ぶ文法項目は以下の通りである。 基本の形、主語と述語の省略、比較、過去形と過去完了、不定詞、受動態、関係代名詞、仮定法、I t の用法、進行形、形容詞、など 学習項目 4,5,6,7,12,13,14,15,20,21,22,23,28,29,30,31 (教科書) 文法事項の強化を図る。 B1:1,2	
13	評価方法	定期試験 80% , 課題(ノート点検、宿題など)を 20% の比率で総合評価する。			
14	関連科目	英語			
15	教材	教科書: 『Do You Know This?』岡野他 編 朝日出版社 『総合基礎英語の徹底的研究』西村他 編 山口書店			
16	備考	特になし			

科目名	英語 II			担当教員	鳥越洋子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02_20170		
学習目標	1. 平易な英文を読む力を養うことを目的とする。 2. 基礎的な英文法の知識を修得することを目指す。 3. リスニングの力を養う。						
進め方	まず語彙・英文法等の練習を行う。次に、教科書の音読・読解等を行う。その後リスニングを行い、リピーティング、シャドウイング、ディクテーション等を行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. オリエンテーション(2)			英文を読むことにより、単語・熟語・文法を理解させ、SVOCの受身、that節を使ったSVC、分詞構文を定着させる。 B1:1-2, B2:1			
	2. Multi-Cultural Manners (2)						
	3. Multi-Cultural Manners (2)						
	4. Multi-Cultural Manners (2)						
	5. Multi-Cultural Manners (2)						
	6. Multi-Cultural Manners (2)						
	7. 試験範囲のまとめ(2)						
	8. 前期中間試験(1)			英文を読むことにより、単語・熟語・文法を理解させ、関係代名詞の非制限用法、助動詞+完了形などを定着させる。 B1:1-2, B2:1			
	9. 試験の解説(2)						
	10. A Lawyer, at Last (2)						
	11. A Lawyer, at Last (2)						
	12. A Lawyer, at Last (2)						
13. A Lawyer, at Last (2)			英文を読むことにより、単語・熟語・文法を理解させ、未来完了形、原形不定詞などを定着させる。 B1:1-2, B2:1				
14. A Lawyer, at Last (2)							
15. 試験範囲のまとめ(2)							
16. 前期末試験(1)							
17. 試験の解答並びに授業評価アンケート(2)							
18. Zero Landmines (2)			英文を読むことにより、単語・熟語・文法を理解させ、前置詞+関係代名詞、強調表現、名詞の反復用法などを定着させる。				
19. Zero Landmines (2)							
20. Zero Landmines (2)							
21. Zero Landmines (2)							
22. Zero Landmines (2)							
23. 試験範囲のまとめ(2)							
24. 後期中間試験(1)							
25. 試験の解説(2)			英文を読むことにより、単語・熟語・文法を理解させ、前置詞+関係代名詞、強調表現、名詞の反復用法などを定着させる。				
26. Dried Out (2)							
27. Dried Out (2)							
28. Dried Out (2)							
29. Dried Out (2)							
30. Dried Out (2)							
31. 試験範囲のまとめ(2)							
32. 学年末試験(1)							
評価方法	定期試験80%、取組態度、課題など20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：Sunshine English Course II, 迫村 純男他著, 開隆堂 Sunshine English Course II 教科書整理ノート 基礎と発展, 開隆堂編集部, 開隆堂 HyperListening Elementary, Ichiro Hasegawa, 桐原書店 CDブック英会話・ぜったい・音読・入門編, 国弘正雄, 講談社インターナショナル						
備考							

[第 3 学年]

科目名	国語 A			担当教員	森 孝宏, 高木保之			
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20011			
学習目標	2 学年までの国語学習の基礎の上に, 日本語(母語)による言語活動(読み・書き・話し・聞く)を通して, 近代文学に対する理解と論述・発表の力を養い, 思考力と表現力を高める。 本科目は, 学習・教育目標 A, B に関係している。							
進め方	教科書を基に, 講義と論述・発表演習を行う。 特に, 学習目標のうち A1, B1-2 の項目に重点をおいて授業を進める。							
履修要件								
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標				
	1.小説「舞姫」(14) 2.論述「舞姫の読後感」(2)			日本近代文学の代表作に触れることで, 自我意識の変革を促す。 A1:4				
	3.前期中間試験(1)							
	4.評論「イスタ-島になぜ森がないのか」(4) 5.論述・表現演習(4) 6.「である」ことと「する」こと(4) 7.近代詩(3)			多様な視点から観ることで柔軟な思考力を養う。 A1:3 蒐集したしたデータ-を効果的に説明する力を養う C1:4 意図した内容, 自己の主張を要領よく展開する表現力を養う。 B2:1-2				
	8.前期期末試験(1)							
	9.試験問題の解答と授業評価アンケート							
	10.評論「Not I,not I...」(4) 11.近代短歌(3) 12.定型文書作成(2) 13.「ウィルス」というメタファ - (3) 14.論述(2)			近代詩・短歌・俳句に触れることで, 物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:4, B1:1-2 定型文書を作成し, 簡潔に記述する力を養う。 B2:1-2				
	15.後期中間テスト(1)							
	16.近代俳句(2) 17.評論「相手依存の自己規定」(4) 18.記録すること、表現すること(4) 19 論述(2)			日本人独特の思考形態を知り, 自我意識を再考する。 A3:1-2				
	20.学年末試験(1)							
	評価方法	年4回の定期試験, および平常点(提出物等)で総合評価する。						
	関連科目	特になし。						
	教材	教科書: 秋葉康浩 他 著「精選現代文」筑摩書房						
	備考	特になし						

科目名	国語 B			担当教員	野口雅澄		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20012		
学習目標	<p>文芸作品に対する理解を深め、対象の核心を把握する方法を学び、各自の感想を論述することで思考力と表現力を高める。</p> <p>本科目は、学習・教育目標 A, B に関係している。</p>						
進め方	<p>教科書を基に、講義と論述演習を行う。</p> <p>特に、学習目標のうち A3, B1・2 の項目に重点をおいて授業を進める。</p>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 「徒然草」「久しく隔たりて…」(2) 2. 「徒然草」「人の亡きあとばかり」(2) 3. 「方丈記」「安元の大火」(2) 4. 論述「兼好の考え方に思う」(1)			<p>古典を学び文化教養を涵養し、簡潔な表現に触れることで、物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:4, B1:1-2</p> <p>論理的な記述力、自己の主張を要領よく展開する表現力を養う。 B2:1-2</p>			
5. 前期中間試験(1) 6. 「伊勢物語」「関守」(2) 7. 「大和物語」「姥捨山」(2) 8. 「万葉の歌」(1) 9. 論述「任意の歌について論ず」(1)							
10. 前期期末試験(1) 11. 「枕草子」「春はあけぼの」(2) 12. 「枕草子」「ありがたきもの」(2) 13. 「奥の細道」「那須野」(3) 14. 「奥の細道」「市振」(1)							
15. 後期中間テスト(1) 16. 「唐詩」(5)							
17. 後期期末試験(1)							
評価方法	年4回の定期試験、およびレポート・提出物等で総合評価する。						
関連科目	特になし。						
教材	教科書：影山輝国 他 著「古典 古文編」教育出版社 影山輝国 他 著「古典 漢文編」教育出版社						
備考	特になし。						

科目名	政治・経済			担当教員	井上 斌		
学年	全学科・3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20030		
学習目標	政治の基本原則として、民主政治について理解し、日本国憲法の基本的人権、統治機構を学ぶ。さらに、国際政治のしくみを理解する。経済については、市場経済、金融・財政政策、国民所得と経済成長、景気循環などについて理解し、国際経済についても、貿易、国際収支などについて学ぶ。そして、現代日本と国際社会がもつ課題について理解する。						
進め方	教科書を中心に講義形式を進める。必要なところは資料集を参照する。政経は特に毎日の新聞、テレビのニュースなどを資料とすることが出来るので、日頃からニュースに関心を持つよう心掛ける。またインターネットの検索は情報を得る上で、非常に大切なので時々実際に行ってみる。国際的視野から身のまわりの生活についてまで、幅広い視野を持つことを目的として進める。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.民主政治の構造（2）			民主政治及び各国の政治制度について理解する			
	2.民主政治の基本原則（2）			A 1:3			
	3.大日本帝国憲法（2）						
	4.日本国憲法の基本原則（2）			日本国憲法の基本原則及び基本的人権について			
	5.基本的人権の保障（2）			理解する			
	6.新しい人権（2）			A 1:4			
	7.情報化社会と人権（2）						
	8.前期中間試験（1）						
	9.国会のしくみと役割（2）			日本国憲法の統治機構について理解する			
	10.内閣のしくみと役割（2）			A 3:4			
	11.裁判所のしくみと役割（2）						
	12.政治と政党。（2）			現代日本の政治について理解する			
	13.選挙制度のしくみ（2）			A 1:3			
	14.国際社会と国際法（2）			国際政治について理解する			
	15.国際政治の展開（2）			A 1:3			
	16.前期末試験（1）						
	17.試験問題の解答、家計・企業・政府のはたらき（2）			ミクロ経済学について理解する			
	18.市場経済のしくみ（2）			A 3:1			
	19.金融・財政のしくみとはたらき（2）			マクロ経済学について理解する			
	20.国民所得と経済成長（2）			A 3:1			
	21.景気循環のしくみ（2）			国際経済について理解する			
	22.貿易と国際収支（2）			A 1:3			
	23.国際経済の展開（2）						
	24.後期中間試験（1）			現代日本の政治・経済についての諸問題を理解する			
	25.情報化の進展と市民社会（2）			A 1:2, A 1:3, A 1:4, A 3:1, A 3:3, A 3:4			
	26.消費者問題と消費者保護（2）						
	27.公害防止と環境保全（2）						
	28.労使関係と労働市場（2）						
	29.人種・民族問題（2）						
	30.国際経済格差の是正と国際協力（2）						
	31.国際社会における日本の役割（2）						
32.学年末試験（1）							
評価方法	定期試験、授業中の態度などを総合的に評価する。						
関連科目	歴史、地理、倫社など他の社会の科目						
教材	教科書：香川勝俊編 「教養の政治学・経済学」 学術図書出版社 資料集：田中生夫他編 「新編資料 高校政・経 2006」 令文社						
備考							

科目名	微分積分学			担当教員	谷口浩朗，橋本竜太，南貴之，森岡茂		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03 20080		
学習目標	2 学年では，主に 1 変数関数の微分・積分を取り扱ってきたが，本科目は多変数関数とくに 2 変数関数を対象とする。偏微分の意味を理解し，計算ができるように養成する。2 重積分の概念を理解し，基本的な 2 重積分ができることを目指す。また，偏微分の応用や 2 重積分の応用など，2 変数関数にまつわる諸問題を解決できるようになることが目標である。						
進め方	指定教科書にそって学習内容を解説していく講義形式。各自の自主的な学習が必要なのはいうまでもなく，練習問題を通して学習内容の定着を目指す。前期は主に偏微分，後期は 2 重積分を取り扱う。基本的な概念の理解の上で，さまざまな計算ができることを重視する。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 2 変数関数の定義(2) 2. 2 変数関数の極限(2) 3. 偏導関数(2) 4. 偏導関数の計算(2) 5. 接平面(2) 6. 合成関数の微分法(その 1)(2) 7. 合成関数の微分法(その 2)(2) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9. 高次偏導関数(2) 10. 多項式による近似(2) 11. 極大・極小(その 1)(2) 12. 極大・極小(その 2)(2) 13. 陰関数の微分法(2) 14. 条件つき極値問題(2) 15. 包絡線(2) ----- 16. 前期末試験(1) ----- 17. 2 重積分の定義(2) 18. 2 重積分の性質(2) 19. 2 重積分の計算(その 1)(2) 20. 2 重積分の計算(その 2)(2) 21. 積分順序の交換(2) 22. 立体の体積(その 1)(2) 23. 立体の体積(その 2)(2) ----- 24. 後期中間試験(1) ----- 25. 座標軸の回転(2) 26. 極座標による 2 重積分(2) 27. 変数変換(2) 28. 広義積分(2) 29. 2 重積分のいろいろな応用(その 1)(2) 30. 2 重積分のいろいろな応用(その 2)(2) 31. 演習(2) ----- 32. 学年末試験(1)			偏微分の意味を理解し，基本的な 2 変数関数の偏導関数を計算できる。D1:4 2 次の偏導関数が計算できる。D1:4 さまざまな偏微分に関する応用問題が解ける。D1:4 基本的な 2 重積分が計算できる。D1:4 簡単な立体の体積を計算できる。D1:4 変数変換により 2 重積分を計算できる。D1:4 2 重積分の応用問題が解ける。D1:4			
評価方法	定期試験 90%，レポートや平常点（授業態度や課題）10%で総合評価する。						
関連科目	微分積分学(2年)，応用解析学						
教材	教科書：新井一道他 著「新訂 微分積分 II」大日本図書 問題集：田代嘉宏編「新編 高専の数学 3 問題集(第 2 版)」森北出版						
備考	特になし						

科目名	応用解析学			担当教員	須那聡, 橋本竜太, 森岡茂		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20090		
学習目標	与えられた数学的対象の概念を理解し, 基本的な用語・記号・定義式・公式に習熟するとともに, これらの計算ができ, 諸問題に適用する能力を身につけることが望まれる						
進め方	各項目ごとに基本となる理論や新しい用語・記号について説明し, 「例題」を解説し演習として「問」や章末問題を各自が解く						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1.立体の体積(4) 2.回転面の面積(4) 3.媒介変数表示による図形(4) 4.極座標による図形(4) 5.変化率と積分(4) 6.広義積分(4) 7.行列式の性質と展開(4) ----- 8. 前期中間試験(2) ----- 9.正則な行列の行列式(4) 10.連立1次方程式と行列式(4) 11.行列式の図形的意味(4) 12.線形変換(4) 13.合成変換と逆変換(4) 14.回転を表す線形変換(4) 15.直交変換(4) ----- 16. 前期末試験(2) ----- 17.固有値と固有ベクトル(4) 18.行列の対角化(4) 19.対角化の応用(4) 20.多項式による近似(1)(4) 21.多項式による近似(2)(4) 22.数列の極限(4) 23.級数(4) ----- 24. 後期中間試験(2) ----- 25.べき級数とマクローリン展開(4) 26.オイラーの公式(2) 27.微分方程式の意味(4) 28.微分方程式の解(4) 29.変数分離形(4) 30.同次形(4) 31.1階線形微分方程式(4) ----- 32. 学年末試験(2)			定積分の応用として各種の変換で表された積分を、公式を用いて求めることができる。D1:4 行列式の定義および性質を理解し、行列式の値を求めることができる。クラメル公式を用いて連立1次方程式を解くことができる。正則な行列の逆行列を求めることができる。線形変換と図形との関係を理解することができる。行列の固有値、固有ベクトルを求めこれを対角化できる。D1:4 数列、級数の極限を把握しこれらの極限值を計算できる。D1:4 与えられた関数のマクローリン展開を求めることができる。D1:4 微分方程式の形を洞察し、これの一般解を求めることができる。D1:4			
評価方法	定期試験 90%, 学習状況・レポートを 10% の比率で総合評価する。						
関連科目	応用数学						
教材	教科書: 新井一道他 著「新訂 微分積分 I」, 「新訂 微分積分 II」, 「新訂 線形代数」大日本図書 問題集: 田代嘉宏 編「新編 高専の数学 2 問題集(第2版)」, 「新編 高専の数学 3 問題集(第2版)」森北出版						
備考	特になし						

科目名	保健・体育			担当教員	横山 学		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	07G03_20120		
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明したうえで、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、1・2年で基礎技術を修得したうえで、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1, 年間授業の概要説明（1）			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえるようにする。 F2:1-4			
学習内容	テニス 2, 基本練習（スイング・ボレー他）（6） 3, ルール説明・ゲーム（7） 4, 実技試験（1）			基礎技術を修得すると共に、ルールと理論を理解し、ゲームが行なえるようにする。 F3:1-5			
	ソフトバレーボール 5, 基本練習（パス・スパイク他）（5） 6, ルール説明・ゲーム（7） 7, 実技試験（1）			ソフトバレーボール用ボールに慣れると共に、基礎技術を習得する。またルールを把握し、ゲームを運営できるようにする。 F3:1-5			
学習内容	水泳 8, 競泳種目の練習および遠泳（2）			水に慣れると共に、泳力（持久力）の向上を目指す。 F1:3,4,F3:2			
	スポーツテスト 9, 記録測定（3）			毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
学習内容	バドミントン 10, 基本練習（スイング・サーブ他）（5） 11, ルール説明・ゲーム（7） 12, 実技試験（1）			バドミントンの基礎技術（サーブ・スイング・フットワーク）を習得する。またルールを把握し、ゲームを運営できるようにする。 F3:1-5			
	フットサル 13, 基礎技術の練習（パス・ドリブルシュート）（3） 14, 連携プレーの理論（2） 15, ルール説明・ゲーム（8） 16, 実技試験（1）			フットサル用ボールに慣れると共に、基礎技術を習得する。またルールを把握し、ゲームを運営できるようにする。 F3:1-5			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 I			担当教員	森 和憲		
学年	3 (通信・情報)	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20160		
学習目標	本科目は英語コミュニケーションの基礎となる文法力と、文法運用に必要な語彙力を集中的に培うことを目標としている。これら二つの力を身につけることが、将来英語力を必要とされた場合の学習の原動力となることを期待するものである。						
進め方	1. 文法の演習問題を課題として与え、その解説を中心に授業を行う 2. 定期的に単語の暗記テストを行う 3. 定期的に英文法の小テストを行う 4. マルチメディアを使って語彙や文法を学習する						
履修要件	なし						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1.国際語としての英語について (1)			英語の重要性について理解する			
	2.文の種類と文型 (4)			基本 5 文型を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	3.動詞と時制 (5)			現在・過去・未来形を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	4.完了形 (5)			現在・過去完了形を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	5.助動詞 (4)			助動詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	6.まとめ I (1)			既習項目の復習			
	7.まとめ II (1)			既習項目の復習			
	8.前期中間試験(1)						
	9.分詞 I (3)			分詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	10.分詞 II (3)			分詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	11.受け身 I (6)			英語の態を勉強する B1:1-3 B2:1-3			
	12.受け身 II (3)			英語の態を勉強する B1:1-3 B2:1-3			
	13.時制の一致 (6)			時勢の一致を勉強する B1:1-3 B2:1-3			
	14.まとめ I (2)			既習項目の復習			
	15.まとめ II (2)			既習項目の復習			
	16.前期末試験 (1)						
	17.不定詞 I (4)			不定詞を含む複雑な文章を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	18.不定詞 II (3)			不定詞を含む複雑な文章を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	19.動名詞 I (4)			動名詞を含む表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	20.動名詞 II (3)			動名詞を含む表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	21.否定 (3)			否定形を含む複雑な文章を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	22.接続詞 I (2)			接続詞を含む表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	23.接続詞 II (2)			接続詞を含む表現を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	24.後期中間試験 (1)						
	25.関係詞 I (3)			関係詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	26.関係詞 II (3)			関係詞の用法を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	27.仮定法 (6)			日本語にはない仮定法の項目を理解する B1:1-3 B2:1-3			
	28.比較級 (5)			比較級及び最上級の文章を理解できる B1:1-3 B2:1-3			
	29.一年間のまとめ (5)			既習項目の復習			
30.学年末試験 (1)							
評価方法	中間・期末試験を 80%、小テスト 10%・提出物等を 10%の比率で総合評価する。						
関連科目	英語 II						
教材	教科書：桐原書店編集部: Overview English Grammar in 30 Lessons (桐原書店) 英単語帳：亀山太一監修『CO CET3300』(成美堂) 演習問題集：桐原書店編集部:Overview English Grammar Training Book (桐原書店) 上垣暁雄『即戦ゼミ 11 大学入試ベストポイント英語頻出問題 740』(桐原書店)						
備考	特になし						

科目名	英語 I			担当教員	土屋 紀子		
学年	電子3年・制御3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20160		
学習目標	色々な文法を理解したり単語を覚えることで英語への知識を深め、英語をより良く理解し、英作文や英文の読解が容易になることを目標とする。						
進め方	4種類のテキストを使用し、そのうちの3種類を主に授業中に使用する。授業中に多くの問題を解きながら理解していく方法で授業を行う。授業では英語特有の文法構造を理解し、確認のための問題練習を行う。単語集 COCET 3300 を使い毎週単語テストを行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 文の成り立ち、第1章 文の種類(3) 2. 第2-3章 動詞と文型(3) 3. 第4章 動詞と時制(3) 4. 第5章 動詞と時制(3) 5. 第6章 完了形(3) 6. 第7章 完了形(3) 7. 試験範囲のまとめ(3) 8. 前期中間試験(1) 9. 試験解説 第8章 助動詞(3) 10. 第9章 助動詞(3) 11. 第10章 助動詞(3) 12. 第11章 態(3) 13. 第12章 態(3) 14. 第13章 不定詞(3) 15. 試験範囲のまとめ(4) 16. 前期期末試験(1) 17. 試験解説とアンケート・第14章不定詞(3) 18. 第15章 不定詞(3) 19. 第16章 動名詞(3) 20. 第17章 動名詞(3) 21. 第18章 分詞(3) 22. 第19章 分詞(3) 23. 第20章 比較 試験範囲のまとめ(3) 24. 後期中間試験(1) 25. 試験解説 第21章 比較(3) 26. 第22章 関係詞(3) 27. 第23、24章 関係詞(3) 28. 第25章 仮定法(3) 29. 第26章 仮定法(3) 30. 第27章 否定(3) 31. 第28章 接続詞 試験範囲のまとめ(4) 32. 学年末試験(1)			英語の文法構造を理解し定着させる。また、英単語集 COCET 3300 に含まれる単語をできるだけ多く覚え、英作文や英文の読解が容易になるようになる。 B1:1-3 夏休み課題：夏休みの1日を英語で書く。 （英語で自分の考えを伝えることができる。） B2: 1, 2			
評価方法	定期試験 80%，取り組み態度，レポートなどを20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	1. "Overview English Grammar in 30 Lessons" 桐原書店 2. "Overview English Grammar Training Book" 桐原書店 3. 上垣暁雄編『即戦ゼミ 大学入試 ベストポイント英語頻出問題 740』桐原書店 4. 亀山太一監修『COCET 3300 理工系学生のための必修英単語 3300』成美堂						
備考	特になし						

科目名	英語Ⅱ			担当教員	下林 千賀子, 鳥越 秀知		
学年	全学科3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G03_20170		
学習目標	1. 様々な話題の英文を読むことをつうじて、語彙力を高め、英文読解力を向上させる。 2. 文法知識を定着させる。 3. 簡単な日常的会話の聞き取りに慣れる。						
進め方	単語・熟語・書き取り・文法問題などの練習を行う。さらに、教科書の英文解釈を行う。リーディングの教科書は、各課ごとに、新出単語や熟語の意味並びに発音を学び、英文読解を通じて内容を学習する。また聴解練習も行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. オリエンテーション (2) 2. Short Reading 1-2 (2) 3. Short Reading 3-4 (2) 4. Short Reading 5-6 (2) 5. Short Reading 7-8 (2) 6. Short Reading 9-10 (2) 7. 試験範囲のまとめ (3) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9. 試験解説 (2) 10. You have got a friend (2) 11. You have got a friend (2) 12. You have got a friend (2) 13. What is your favorite color? (2) 14. What is your favorite color? (2) 15. 試験範囲のまとめ (3) ----- 16. 前期末試験(1) 17. 試験の解答並びに授業評価アンケート (2) 18. What is your favorite color? (2) 19. What is your favorite color? (2) 20. I made it. (2) 21. I made it. (2) 22. 試験範囲まとめ(3) ----- 23. 後期中間試験(1) ----- 24. 試験解説 (2) 25. I made it. (2) 26. I made it. (2) 27. The life machine (2) 28. The life machine (2) 29. 試験範囲のまとめ(3) ----- 30. 学年末試験(1)			Listening: 日常的な英語の聞き取りができる B1:1-2 1-9 パラグラフの構造と展開を理解し、英語で文章全体を簡単にまとめて理解できる B1: 1- 3 10-17 英文読解を通じて、単語・熟語・文法を理解させ、基本的な英語の理解を定着させる。 B1:1-2 B2:1-2 18-24 英文読解を通じて、単語・熟語・文法を理解させ、読解力を定着させる。 B1:1-2 B2:1-2 25-30 英文読解を通じて、単語・熟語・文法を理解させ、読解力を定着させる。さらに、英語での内容把握と同時に、英語を通して異文化への理解を深めることができる B1:1-3 B2:1-2			
評価方法	定期試験 80 % , 日常の取り組み・提出物を 20 % の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	鈴木寿一他著 "New Stream II" 増進堂 鈴木寿一他著 "New Stream II Workbook" 増進堂 桐原書店編集部編 "HyperListening Plus Elementary" 桐原書店						
備考	特になし						

[第 4 学年]

科目名	保健・体育			担当教員	塩田 政義・有馬 弘智		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	07G04_20120		
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は、下級生の時に修得しているため、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を取り入れ、自分の興味のある種目を選択させ、社会体育への継続を目指す。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1, 年間授業の概要説明（1） スポーツテスト 2, 記録測定（3） バスケットボール・テニス（選択） 3, 選択授業の説明、種目の決定（1） 4, ゲーム（7） 5, 実技試験（1） ゴルフ・ソフトボール（選択） 3, 選択授業の説明、種目の決定（1） 4, ゴルフの基礎練習（7） 4, ソフトボールのゲーム（7） 5, 実技試験（1） 卓球・ソフトバレーボール（選択） 7, 選択授業の説明、種目の決定（1） 8, ゲーム（6） 9, 実技試験（1） サッカー（選択） 7, 選択授業の説明、種目の決定（1） 8, ゲーム（6） 9, 実技試験（1）			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえるようにする。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4 選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の向上を目指す。 F3:1-5			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	独語			担当教員	小阪清行		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20190		
学習目標	語学の学習を通して、広い視野の獲得を目指す。特にEUの存在が大きく取り上げられる今日、ヨーロッパを、その文化の根底から理解することに力を注ぎたい。そのため、文学・思想・宗教・歴史などにも触れる。						
進め方	文法説明		辞書を使つての訳読		ドリル	会話練習	会話テスト(時々)
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. オリエンテーション(2)			B1:1			
	2. ドイツ語ってどんな言葉?(2)			発音に慣れる B1:1			
	3. 難しくないよ、ドイツ語の発音(2)			B1:1			
	4. でも、甘くはないよ文法は(2)			B1:1			
	5. やってみよう、ドイツ語で自己紹介(2)			動詞の人称変化の理解 B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	6. 覚えよう、動詞の変化、会話テスト(2)			B1:1			
	7. ヘー、ドイツ語って英語とこう違うんだ(2)			B1:1			
	8. 前期中間試験(1)						
	9. 机は男性、黒板は女性、少女は中性...!?(2)			B1:1			
	10. 格変化って、何?(2)			名詞の格変化の理解 B1:1			
	11. アイラブユーをドイツ語で(2)			人称代名詞の理解 B1:1			
	12. 動詞が二つにチョン切れる(2)			分離動詞の理解 B1:1			
	13. 動詞がひっくり返ったり、飛んでったり(2)			定動詞後置・倒置の理解 B1:1			
	14. 会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	15. 模擬テスト(2)			B1:1			
	16. 前期期末試験(1)						
	17. 試験解答とアンケート・忘れたドイツ語(2)			B1:1			
	18. 前期よりちょっと高度の自己紹介(2)			B1:1			
	19. 文法のブラッシュ・アップ(2)			B1:1			
	20. 「あなたはドイツ語を喋れますか?」(2)			助動詞の理解 B1:1			
	21. ドイツのビデオを観よう(4)			B1:1			
	22. 模擬テスト、会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	23. 後期中間試験(1)						
	24. 『聖しこの夜』をドイツ語で(2)			B1:1			
	25. 年の瀬はもちろん『第九』(2)			B1:1			
	26. 「私は昨日コンサートにへいきました。」(2)			過去形の理解 B1:1			
	27. これ()をドイツ語では現在完了で(4)			現在完了形の理解 B1:1			
	28. 会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	29. 模擬テスト(2)			B1:1			
30. 学年末試験(1)							
評価方法	定期試験を70%、平常点(会話テストなど)を30%の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	教科書:小阪清行他著「改訂・ドイツ文法の森」						
備考	5月以降毎回辞書を持参すること						

科目名	数学概論 I			担当教員	南貴之		
学年	4 年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20240		
学習目標	一変数および多変数の微分積分学の復習を通じて学力の向上を図り，編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入学するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし，数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生・大学へ編入学を希望する学生の指導に資する。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.数列の収束・発散（その1）(1) 2.数列の収束・発散（その2）(1) 3.関数の極限（その1）(1) 4.関数の極限（その2）(1) 5.微分法の応用（その1）(1) 6.微分法の応用（その2）(1) 7.微分法の応用（その3）(1) ----- 8. 前期中間試験(2) ----- 9.不定積分の計算（その1）(1) 10.不定積分の計算（その2）(1) 11.定積分の計算（その1）(1) 12.定積分の計算（その2）(1) 13.広義積分（その1）(1) 14.広義積分（その2）(1) 15.広義積分（その3）(1) ----- 16. 前期末試験(2) ----- 17.積分の応用（その1）(1) 18.積分の応用（その2）(1) 19.積分の応用（その3）(1) 20.積分の応用（その4）(1) 21.偏微分の計算（その1）(1) 22.偏微分の計算（その2）(1) 23.偏微分の計算（その3）(1) ----- 24. 後期中間試験(2) ----- 25.偏微分の応用（その1）(1) 26.偏微分の応用（その2）(1) 27.偏微分の応用（その3）(1) 28.重積分の計算（その1）(1) 29.重積分の計算（その2）(1) 30.重積分の応用（その1）(1) 31.重積分の応用（その2）(1) ----- 32. 学年末試験(2)			数列や級数の収束・発散の判定や極限の計算およびそれらの応用ができる。D1:4 関数の極限の計算およびそれらの応用ができる D1:4 一変数関数の微分が計算でき，それらの応用ができる。D1:4 一変数の積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4 多変数関数の微分が計算でき，それらの応用ができる。D1:4 重積分の計算およびそれらの応用ができる。D1:4			
評価方法	定期試験 90%，レポート等 10%の比率でを総合的に評価する。						
関連科目	微分積分学（2学年），微分積分学（3学年）						
教材	プリントによる問題集，1年から3年までに使用した教科書および問題集						
備考	特になし						

科目名	数学概論			担当教員	橋本竜太			
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	4	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20250			
学習目標	複素関数の解析学，すなわち複素関数論は，理工学において広い応用をもつことから，基礎的な教養として一度学んでおく必要がある。本科目では，実関数の積分への応用を主要なテーマとして，複素関数論への入門となる内容を学習する。その学習を通して，計算力の強化および数学的論理思考能力の養成を目指す。							
進め方	指定教科書に沿って学習内容を解説していく講義形式。レポート作成を通して学習内容の定着を図る。各自の自主的な予習復習は必須。							
履修要件	特になし							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. 複素数の四則演算(1) 2. 2次方程式や高次方程式の求解(1) 3. 複素数平面と四則演算(1) 4. 極形式，複素数のべき乗(1) 5. ドモアブルの定理，1のべき根(1) 6. 指数関数や三角関数(1) 7. 復習：複素数の演算(1) ----- 8. 前期中間試験(2) -----			複素数の基本的な計算ができる。 D1:2				
	9. 曲線の媒介変数表示(1) 10. 実変数複素関数の微積分(1) 11. 複素積分の定義(1) 12. 多項式や有理式の一周積分(1) 13. 有理式の留数定理(1) 14. 三角関数の有理式の実積分への応用(1) 15. 復習：有理式の複素積分(1) ----- 16. 前期末試験(2) -----			基本的な複素積分が計算できる。 D1:2				
	17. コーシー・リーマンの微分方程式(1) 18. 正則関数(1) 19. コーシーの積分定理と積分公式(1) 20. 複素関数の複素微分(1) 21. グルサの公式(1) 22. 極，留数，留数定理(1) 23. 復習：コーシーの積分定理(1) ----- 24. 後期中間試験(2) -----			コーシーの積分定理を理解する。 D1:3				
	25. 複素関数の評価(1) 26. 複素積分の評価(1) 27. 有理式の無限積分の計算(2) 28. 三角関数を含む無限積分の計算(2) 29. 復習：複素積分の実積分への応用(1) ----- 30. 学年末試験(2)			留数の基本的な計算ができる。 D1:2				
				複素積分を利用して実積分を計算できる。 D1:4				
	評価方法	定期試験(60%)およびレポート(40%)で総合評価する。ただし比率は目安であり，受講生の受講状況を踏まえて変更することがあり得る。受講姿勢の不良な学生の評価は行わない。						
	関連科目	微分積分学，応用解析学，応用数学						
	教材	教科書：長崎他著「明解 複素解析」(培風館)および教員作成の資料 参考書：「応用数学」(大日本図書)						
	備考	「教室に存在していること」は「授業に出席していること」とは同じではないと理解すること						

科目名	英語 IV			担当教員	鳥越秀知		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20270		
学習目標	1. 様々な話題の英文を読むことをつうじて、語彙力を高め、英文読解力を向上させる。 2. 文法知識を定着させ、TOEIC に対応可能な力をつける。 3. リスニング力をつける。						
進め方	リーディングの教科書の英文解釈・内容把握問題・文法問題などを行う。また、TOEIC 用の読解問題、文法問題、リスニング問題も行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. イントロダクション (2)			英文読解を通して、語彙力をつけ、内容を把握する力をつけることができる。 B1:1-4 B2:1-3			
	2. Immigrationin the 21st Century (2)						
	3. Immigrationin the 21st Century (2)						
	4. Immigrationin the 21st Century (2)						
	5. Immigrationin the 21st Century (2)						
	6. Challenging a Mountain of Taboos (2)						
	7. 試験範囲のまとめ (2)			文法問題を通じて、文法を理解させ、文法を停車くさせることができる。 B1:1-4 B2:1-3			
	8. 前期中間試験 (1)						
	9. 試験の解説 (2)						
	10. Challenging a Mountain of Taboos (2)						
	11. Challenging a Mountain of Taboos (2)						
	12. Challenging a Mountain of Taboos (2)						
	13. The Past (2)			聴解問題の練習によって、基本的なリスニング力をつけることができる。 B1:1-4 B2:1-3			
	14. The Past (2)						
	15. 試験範囲のまとめ (2)						
	16. 前期末試験 (1)						
	17. 試験の解説とアンケート (2)						
	18. The Past (2)						
	19. The Past (2)						
	20. Christian Orphanages for Tunami Orphans (2)						
	21. Christian Orphanages for Tunami Orphans (2)						
	22. Christian Orphanages for Tunami Orphans (2)						
	23. 試験範囲のまとめ (2)						
	24. 後期中間試験 (1)						
	25. 試験の解説 (2)						
	26. Christian Orphanages for Tunami Orphans (2)						
	27. Providing Empathetic Medical Care (2)						
	28. Providing Empathetic Medical Care (2)						
	29. Providing Empathetic Medical Care (2)						
	30. Providing Empathetic Medical Care (2)						
	31. 試験範囲のまとめ (2)						
32. 学年末試験 (1)							
評価方法	定期試験 90 % , 取組態度・課題などを 10 % の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書： 『Reading in Focus: World Affairs Today』 Masachika Ishida, 桐原書店 『Over the TOEIC Bridge Test』 Atsushi Mizumoto, 桐原書店						
備考							

科目名	哲学			担当教員	森正幸		
学年	全学科・4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20300		
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発 学習目標達成に起因する負の影響など、諸問題が山積している。人類はかつて経験したことのない 未曾有の事態に直面していると言える。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底している ことが極めて現代の特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められて いる時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	<p>個体発生は系統発生を要約して繰り返す（ハックル）と言われるように、個人の精神史と世界のそ れとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在 としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がり思いを馳せる。西洋哲学史を歴史的に鳥瞰 しつつ哲人と時代を考察する。（時代を生きること哲学と人生）</p> <p>哲学から何故、科学的思考が形成されたのか、例えばデカルト哲学を詳細に考察しても良い。 現代哲学と日本のおかれた特異状況を考察することにより未来知への展望・期待としたい。</p>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	○ 個人史としての哲学（哲学概説）（4）			自己を形成している精神内容を見つめる眼と 他者理解の態度を涵養する。 A1:3			
	○ 現代世界の諸問題と哲学（6）			世界の諸問題と世界内存在としての自己 A1:4			
	○ 哲学知のさまざまな在り方（4）			さまざまな知的在り方があること理解する。 A3:4			
	----- 前期中間試験（1）						
	○ 西洋哲学史「ソフィーの世界」を主な題材 として 神話 自然哲学 運命 ソクラテス プラトン アリストテレス 神学（10）			歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し、時 代の役割を果たした事を知る。 A1:3			
	◎ 哲学と人生（ストア学派）（4）			境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:4			
	----- 前期末試験（1）						
	○ 試験返却、哲学と科学的思考あるいは方法論 デカルト ベーコン パスカール スピノザ ライプニッツカントヘーゲルなど （10）			哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産 出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3			
	○ 現象学と人間諸科学（4）			哲学の一形態である現象学が何故、成立したの か、考察する。 A1:3			
----- 後期中間試験（1）							
○ 総合知、世界観としての哲学（6）			混迷の度を深める現代世界、総合知・世界観と しての哲学の重要性を知る。 A1:3 A1:4				
○ Philosophy と哲学（東洋的形而上学）（8）			世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは 何か…。 A1:3 A1:4				
----- 学年末試験（1）							
評価方法	定期試験70%、小論文20%、平常点（出席率、授業態度）10%の比率で総合評価する。 意見発表など積極的に授業参加した者に対しては過大評価をする。						
関連科目	なし						
教材	<p>教材教科書：なし</p> <p>参考書：ヨーステン・ゴルテン著「ソフィーの世界」NHK 出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「現代哲学」日本放送出版界</p>						
備考	テーマによっては映像を使用することもある。						

科目名	中国語			担当教員	張 文		
学年	4 年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20400		
学習目標	中国語の発音，日常用語，基礎的な文法を学習し，簡単な会話と文章を書ける能力を養成する。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに，学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に，繰り返し練習を行い，現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。前期は，中国語の入門（発音・語彙，日常用語，簡単な文法）を行い，後期は実用的文法（簡単な会話，簡単な文章）を行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 中国語の入門，発音(2) 2. 発音（母音,子音，アクセント）(2) 3. 発音のまとめ，代名詞(2) 4.動詞述語文(2) 5.形容詞述語文(2) 6.名詞述語文(2) 7. 場所代名詞,方位詞，数量詞(2) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9. 疑問文(2) 10. 形容詞を修飾する副詞(2) 11. 疑問詞，時刻(2) 12. 日付，曜日(2) 13. 完了を表す助詞（ 1 ）(2) 14. 完了を表す助詞（ 2 ）(2) 15. 前期の学習をまとめ(2) ----- 16. 前期末試験(1) 17. 試験の解答並びに授業評価アンケート(2) 18. 反復疑問文 (2) 19. 前置詞(2) 20. 時間補語(2) 21. 経験を表す助詞(2) 22. 継続を表す助詞(2) 23. 動詞の持続態(2) ----- 24. 後期中間試験(1) 25. 選択疑問文(2) 26. 回数補語，程度補語 (2) 27. 比較表現(2) 28. 連動式文(2) 29. 能願動詞（ 1 ）(2) 30. 能願動詞（ 2 ）(2) 31. 後期の学習をまとめ(2) ----- 32. 学年末試験(1)			1 ~ 7 中国語の特徴，学習法を習得し，発音を身につける。 B1:1, B2:1 9 ~ 15 あいさつなど、定型的な日常会話の語彙・文法を理解することができ、会話をおこなえる。 B1:2, B2:2 17 ~ 23 日常的な会話にでてくる単語や文法を理解し，会話ができる。 B1:1-2, B2:1-2 25 ~ 31 状況に応じた簡単な会話ができる。 B1:1-2, B2:1-2			
評価方法	定期試験 90 %，取組態度・課題などを 10 % の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：山下輝彦著 「中国語の入門」(C D 付新版) 白水社						
備考	特になし						

科目名	英語特論			担当教員	畑 伸興		
学年	4年全学科	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_40012		
学習目標	TOEIC 試験は「リスニング」と「リーディング」という 2 つの部門に分かれている。「リーディング」部門においては、文法力が必要となるので、その理解を深める授業を行う。また「リスニング」部門での得点を伸ばすために、リスニング力をつける授業も行う。さらに、TOEIC に関わらず、語彙力の必要であるので、その定着を図る。						
進め方	3 種類のテキストを使用する。授業においては、(教科書①) テキストにしたがって解説し、その後理解を深める(「リーディング」部門)。また毎回音声を読み、問題を解いていく。その後解説を行う(「リスニング」部門)、を行う。(教科書②) 毎回の授業で、解答・解説を行い、その後筆写を行う。(教科書③) 単熟語の定着を図る。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1-7. (教科書①) Unit 1-3 (7)			(教科書①) 練習問題を解くことを通じて、単語・熟語の定着を図り、既習の文法事項を確認し、定着させる。 B1:1,2 B2:1,2 1. ~ 7. Unit 1 ~ 3 で学習する文法事項など 品詞、時制、不定詞			
	8.			9. ~ 15.			
	9-15. (教科書①) Unit 4-6 (7)			Unit 4 ~ 6 で学習する文法事項など 動名詞、助動詞、知覚動詞 17. ~ 23. Unit 7 ~ 9 で学習する文法事項など 使役動詞、関係詞、分詞構文 25. ~ 31. Unit 10 ~ 12 で学習する文法事項など			
	16. 前期末試験 (2)			接続詞・副詞、仮定法			
	17-23. (教科書①) Unit 7-9 (7)			(教科書②) 文法力を強化する。 B1:1,2 学習する文法事項 不定詞、動名詞、分詞、接続詞、時制、態、仮定法、動詞、助動詞、形容詞、副詞、比較、名詞、冠詞、代名詞、関係詞、前置詞			
24.							
25-31. (教科書①) Unit 10-12 (7)			(教科書③) 単熟語の定着を図る。毎週課題として提出。 E6:1				
32. 学年末試験 (2)							
評価方法	年 2 回の定期試験を 80%、課題(上記課題やノート点検など)を 20%で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	①今村 他著『TOEIC テスト 総合レッスン』 鶴見書店 ②小池 直己著『5 分間 TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法』 南雲堂 ③西谷 他著『TOEIC TEST 基本単熟語チェック 550 点レベル』 鶴見書店						
備考	特になし						

[第 5 学年]

科目名	保健・体育			担当教員	塩田 政義		
学年	5年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	07G05_20120		
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は、下級生の時に修得しているため、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を取り入れ、自分の興味のある種目を選択させ、社会体育への継続を目指す。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	<p>1, 年間授業の概要説明（1）</p> <p>スポーツテスト</p> <p>2, 記録測定（3）</p> <p>テニス・ソフトボール・ゴルフ（選択）</p> <p>3, 選択授業の説明、種目の決定（1）（ゴルフ）</p> <p>4, 基本練習（スイング）（6）</p> <p>5, パードゴルフ（5）</p> <p>（テニス・ソフトボール）</p> <p>4・5, ゲーム（11）</p> <p>6, 実技試験（1）</p> <p>サッカー・バドミントン・テニス・卓球（選択）</p> <p>7, 選択授業の説明、種目の決定（1）</p> <p>8, ゲーム（11）</p> <p>9, 実技試験（1）</p>			<p>年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえるようにする。 F2:1-4</p> <p>毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4</p> <p>選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の向上を目指す。 F3:1-5</p>			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	自然特論			担当教員	谷口浩朗		
学年	5年	学期	後期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20220		
学習目標	有限体の取り扱い方に習熟し、その応用としての誤り訂正符号について、具体的な復号方法までを学習する。						
進め方	各学習項目ごとに、学習内容の解説と関連する演習課題を講義した後、演習を行う。授業の十分な復習を行っておくこと。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 整数環と有限体(2) 2. 素体上の連立方程式，高次方程式(2) 3. 有限体の拡大体(2) 4. 有限体の拡大体（演習）(2) 5. 有限体上のベクトルと行列(2) 6. 有限体上の連立方程式，高次方程式(2) 7. 有限体上の座標平面と直線(2) ----- 8. 中間試験(1) ----- 9. 誤り訂正符号について(2) 10. 線形符号としてのハミング符号(2) 11. 巡回符号としてのハミング符号(2) 12. GF(2)上の2誤り訂正符号(2) 13. GF(2)上の2誤り訂正符号の復号(2) 14. GF(2)上の2誤り訂正符号の復号(演習)(2) 15. GF(q)上の1誤り訂正符号(2) ----- 16. 学年末試験(1)			有限体の役割・機能を理解し、活用することが出来る。特に計算などの取り扱いに、習熟する。 D1:2,4 ハミング符号の誤り訂正が出来るようになる。 D1:2 簡単な、GF(2)上の2誤り訂正符号の復号が出来るようになる。D1:2			
評価方法	定期試験（90%）、レポート（10%）の比率で総合評価する。						
関連科目	基礎数学Ⅱ，応用数学Ⅰ						
教材	教材プリントを使用 参考書：藤原 良 他 著「符号と暗号の数理」 情報数学講座 11 共立出版社 参考書：平松豊一 著「応用代数学」 情報の数理 裳華房						
備考	特になし						

科目名	数学概論 III			担当教員	南貴之		
学年	5年	学期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20260		
学習目標	一変数および多変数の微分積分学，線形代数学の復習を通じて学力の向上を図り，編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入学するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし，数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生・大学へ編入学を希望する学生の指導に資する。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.行列・行列式の計算とその応用(2) 2.行列・行列式の応用(2) 3.固有値・固有ベクトル(2) 4.固有値・固有ベクトルの応用(2) 5.ベクトル・ベクトル空間と一次変換(2) 6.一階微分方程式（その1）(2) 7.一階微分方程式（その2）(2) ----- 8.前期中間試験(2) ----- 9.高階微分方程式（その1）(2) 10.高階微分方程式（その2）(2) 11.偏微分の計算(2) 12.偏微分の応用(2) 13.重積分(2) 14.重積分の応用（その1）(2) 15.重積分の応用（その2）(2) ----- 16.前期末試験(2) 17.試験問題の解答			行列・行列式の計算およびそれらの応用ができる。D1:4 与えられた微分方程式の解を求めることができる。D1:4 偏微分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4 重積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
評価方法	定期試験90%，レポート・授業態度等10%の比率でを総合的に評価する。						
関連科目	基礎数学Ⅱ，微分積分学，応用解析学						
教材	プリントによる問題集，今までに使用した教科書						
備考	時間数が少ないので，できる限り独力で多くの問題を解き，添削を受けたり質問をしたりすることを期待する。						

科目名	英語			担当教員	畑 伸興、土屋 紀子		
学年	5年全学科	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20280		
学習目標	各文法項目の理解を深める。また、科学技術の発展とともに、科学技術に関する用語などを目にする機会が多い。したがって、その定着を図る。						
進め方	2種類のテキストを使用する。そのうちの1種類のテキストを中心に、授業を行う。それによって、文法事項の定着を図る。また、技術英語に関する英単語の定着を図る。適宜小テストを行う。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.-6. (教科書) 1, 3, 5 (6)			(教科書) 単語・熟語の定着を図り、既習の文法事項を確認し、定着させる。 B1:1,2 B2:1,2 1. ~ 6.、9. ~ 14.、17. ~ 22.、25. ~ 30.			
	7. 課題の確認など (1)			[それぞれの単元で学習する表現・内容] 1. 文の構造 3. 群動詞 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 9. 関係詞 12. 形容詞・副詞・比較 13. 前置詞と接続詞 14. 句と節 15. 仮定法 16. 話法 17. 名詞構文と無生物主語 7. 15. 23. 31			
	8. 9.-14. 6, 7, 9 (6)			残りの単元は課題として提出。 2. 時制 4. 助動詞 8. 態 10. 名詞と冠詞 11. 代名詞 18. 一致・倒置・強調など			
	15. 課題の確認など (1)			(教科書) 技術英語に関する英単語の定着を図る。適宜小テストを行う。 E6:1			
	16. 前期末試験 (1)						
	17.-22. 12, 13, 14 (6)						
	23. 課題の確認など (1)						
	24. 25.-30. 15, 16, 17 (6)						
	31. 課題の確認など (1)						
32. 学年末試験 (1)							
評価方法	年2回の定期試験を70%、単熟語テスト10%、課題提出20%で、総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	西村 他編『総合英語問題の徹底的研究』 山口書店 岡裏 佳幸著『理工系学生のための科学技術英語 語彙編』南雲堂						
備考	特になし						

科目名	英語			担当教員	畑 伸興		
学年	5年全学科	学期	後期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20281		
学習目標	TOEIC 試験は「リスニング」と「リーディング」という 2 つの部門に分かれている。「リーディング」部門においては、文法力が必要となるので、その理解を深める授業を行う。TOEIC に関わらず、語彙力の必要であるので、その定着を図る。						
進め方	2 種類のテキストを使用する。授業においては、テキストにしたがって解説し、その後理解を深める（「リーディング」部門関係のテキスト）。単語の定着を図る（単熟語のテキスト）。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1-7. (R) 1 Never Give Up 2 Communicating with Your Cell Phone 3 Different Cultures, Different Superstitions 4 The Story of Amazing Grace (7)			(教科書) 練習問題を解くことを通じて、単語・熟語の定着を図り、既習の文法事項を確認し、定着させる。 B1:1,2 B2:1,2 1 . ~ 7 . で学習する主な英単語 1 tremendous, vicious, determined, survive, urge 2 belong, technology, difference, generation, confuse 3 exist, misfortune, indicate, obviously, include 4 cause, respect, endure, compassion, encourage			
	8. 9-15. (R) 5 Communicating with People You Don't Like 6 A Story of Eternal Love 7 Cool Japan 8 Words That Change Your Life (7)			9 . ~ 1 5 . で学習する主な英単語 5 handle, associate, avoid, argue, situation 6 pose, intense, magnificent, decorate, ruin 7 comment, refer, fascinate, export, sophisticated 8 modest, explain, respond, focus, decision, emphasis 1 7 . ~ 2 3 . で学習する主な英単語 9 shade, enormous, roar, strength, apply, advantage, behave, inferior 10 express, communicate, obey, attach, surrender, population, passion, dull 11 experience, explore, convenient, private, disturb, reflect, brief, replace, extreme, substitute 12 capture, pity, declare, insist, release, custom, religion, ambassador, inspire, suffering			
	16. 前期末試験 (2)						
	17-23. (R) 9 Everybody Needs a Friend 10 Colors and Culture 11 Communicating with People You Like 12 Pocahontas:The First American "Ambassador" (7)			2 5 . ~ 3 1 . で学習する主な英単語 13 perform, transport, divide, share, myth, hatred, credit, transform, tension, fade 14 expose, withdraw, negative, release, attitude, positive, overcome, engage, superficial, community 15 precious, desperation, agree, perplexed, hesitation, cure, discuss, variety, grateful, enthusiastic			
	24. 25-31. (R) 13 A Song of Peace 14 Don't Be a Shrinking Violet! 15 The Power of Love (7)			(教科書) 各自で学習する。点検を行う。 E6:1			
	32. 学年末試験 (2)						
評価方法	年 2 回の定期試験を 8 0 %、課題（点検や宿題など）を 2 0 % で、総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	武田 他著『英文速読と TOEIC テスト必須単語』 成美堂 西谷 他著『TOEIC TEST 基本単熟語チェック 6 5 0 点レベル』 鶴見書店						
備考	特になし						

科目名	独語			担当教員	小阪清行		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20290		
学習目標	語学の学習を通して、広い視野の獲得を目指す。特にEUの存在が大きく取り上げられる今日、ヨーロッパを、その文化の根底から理解することに力を注ぎたい。そのため、文学・宗教・歴史などにも触れる。						
進め方	全般的な文法説明 辞書を利用したの訳読 ドリル 会話テスト(時々)						
履修要件	独語Iを履修していること						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 日本とドイツ、シーボルト A(2)			受け身について理解する B1:1			
	2. 日本とドイツ、シーボルト B(2)			B1:1			
	3. 第九の初演、ドイツ兵俘虜 A(2)			B1:1			
	4. 第九の初演、ドイツ兵俘虜 B(2)			B1:1			
	5. 会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	6. ゲーテの生涯 A(2)			過去形と現在完了形を理解する B1:1			
	7. ゲーテの生涯 B(2)			B1:1			
	8. 前期中間試験(1)						
	9. ユダヤ人はなぜ迫害されたのか? A(2)			B1:1			
	10. ユダヤ人はなぜ迫害されたのか? B(2)			B1:1			
	11. ユダヤ人はなぜ迫害されたのか? C(2)			B1:1			
	12. 会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	13. ヒトラーと抵抗運動について A(2)			関係代名詞の用法を把握する B1:1			
	14. ヒトラーと抵抗運動について B(2)			B1:1			
	15. ヒトラーと抵抗運動について C(2)			B1:1			
	16. 前期期末試験(1)						
	17. 試験の解答とアンケート・会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	18. EUの言語はどうなるのか? A(2)			B1:1			
	19. EUの言語はどうなるのか? B(2)			B1:1			
	20. EUの言語はどうなるのか? C(2)			B1:1			
	21. アーミッシュって何? A(2)			B1:1			
	22. アーミッシュって何? B(2)			B1:1			
	23. 後期中間試験(1)						
	24. アーミッシュって何? C(2)			接続法を理解する B1:1			
	25. 会話テスト(2)			B1:2, B1:3, B2:1, B2:2			
	26. アインシュタインの生涯 A(2)			B1:1			
	27. アインシュタインの生涯 B(2)			B1:1			
	28. アインシュタインの生涯 C(2)			B1:1			
	29. アインシュタインの生涯 D(2)			B1:1			
30. 学年末試験(1)							
評価方法	定期試験を70%、平常点(会話テストなど)を30%の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	教科書:小阪清行他著 「改訂・ドイツ文法の森」(4年生のとき使用したもの) プリントを多く使用						
備考	毎回辞書を持参すること						

科目名	法学			担当教員	井上 斌			
学年	全学科・5年	学期	通期	履修条件	選択	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20310			
学習目標	法は社会生活の大切な社会規範の一つである。まず、法についての一般的な内容を理解する。そして、憲法、民法、刑法など重要な法律について理解する。さらに国際法についても学ぶ。人権、財産権など実際の判例や事例を参考にして、自ら物事を法的に考える力を身に付けることを目標とする。							
進め方	教科書を中心として講義形式で進める。必要に応じて、判例や事例を学ぶ。また、実社会の出来事を法的に考えていく。判例や事例については、自分なりの感想を持てるようにする。内容が多岐にわたるので、要領よく学習を進めることが大切である。							
履修要件								
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1.法とは何か（2） 2.法と道徳（2） 3.法の目的（2） 4.裁判制度（2） 5.法の解釈（2） 6.憲法の基本原理（2） 7.基本的人権（4）			法について、正義などの一般的な内容を理解する A3:1				
	8.前期中間試験（0） 9.統治機構（4）			日本国憲法の基本原理、基本的人権及び統治機構について理解する A3:3				
	10.財産法・取引法（2） 11.物権と債権（2） 12.契約（2） 13.不法行為（2） 14.家族と法（2） 15.親族・相続法（2）			民法の総則、物権、債権、親族、相続編を理解する A3:4				
	16.前期末試験（1） 17.犯罪と刑罰（2） 18.犯罪の成立要件（2） 19.刑事手続（2） 20.当事者主義（2） 21.公訴・公判（2）			刑法、刑事訴訟法について理解する A3:1				
	22.雇用関係法（2） 23.労使関係法（2） 24.後期中間試験（0）			労働三法、男女雇用機会均等法などを理解する A3:3				
	25.独占禁止法（2） 26.不公正な取引方法・私的独占の禁止（2） 27.知的財産と法（2） 28.特許権（2） 29.著作権（2）			独占禁止法について理解する A3:1 知的財産権について理解する A 3:1				
	30.国際法・国際私法（2） 31.国際取引法（2） 32.学年末試験（1）			国際社会と法について理解する A 3:3				
	評価方法	定期試験、授業中の態度などを総合的に評価する						
	関連科目	政治・経済						
	教材	教科書：唐澤宏明著 「はじめて学ぶ法学」 三省堂						
	備考							

科目名	中国語II			担当教員	前崎麗		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G05_20410		
学習目標	中国語 I で学習した中国語の発音，日常用語，基礎的な文法と簡単な会話と文章構築能力を基に，中国語の能力をさらに向上させる。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに，学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に，繰り返し練習を行い，現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. オリエンテーション(2) 2. 能願動詞 3 (2) 3. 能願動詞 4 (2) 4. 方向補語 (2) 5. 複合方向補語 (2) 6. 結果補語 1 (2) 7. 結果補語 2 (2) ----- 8. 前期中間試験(1)			1 ~ 7 基本的な文法項目（1）を習得し，簡単な文章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:1, B2:1			
	9. 中国社会に関する V T R を見る (2) 10. 複合方向補語の派生的な用法 1 と 2 (2) 11. 補語の可能形 1 (2) 12. 補語の可能形 2 (2) 13. 処置式文 (2) 14. 受身文 (2) 15. 前期の学習のまとめ(2) ----- 16. 前期末試験(1)			9 ~ 15 基本的な文法項目（2）を習得し，簡単な文章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:2, B2:2			
	17. 試験の解答並びに授業評価アンケート(2) 18. 使役文 (2) 19. 近接未来 (2) 20. 完了した状況の強調 (2) 21. 無主語文 (2) 22. 二重主語 (2) 23. 名詞の修飾語 1 (2) ----- 24. 後期中間試験(1)			17 ~ 23 基本的な文法項目（3）を習得し，簡単な文章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:2, B2:2			
25. 中国社会に関する V T R を見る (2) 26. 名詞の修飾語 2 (2) 27. 名詞の修飾語 3 と形容詞の畳語形 (2) 28. 感嘆文 (2) 29. 文末の語気助詞 (2) 30. 目的語の繰上げ，状況語の位置 (2) 31. 後期の学習のまとめ (2) ----- 32. 学年末試験(1)			25 ~ 31 基本的な文法項目（4）を習得し，簡単な文章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:3, B2:2				
評価方法	定期試験 80 %，取組態度・課題などを 20 % の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：山下輝彦著 「中国語の入門」(C D 付新版) 白水社						
備考	特になし						